

〔注意〕 記述式で解答する場合は解答用紙Aを、マーク式で解答する場合は解答用紙Bを使用せよ。

- 1 次の文章は大黒達也著『芸術的創造は脳のどこから産まれるか?』の一部分である。これを読んで、後の問に答えよ。

拡散的思考は、決まった問題をよりの確にかつ早く解決するためというよりは、新しい発想を無数にかつ自由に広げ、新たなものを生み出していくタイプの思考をいいます。創造力には、この拡散的思考が重要であるといわれており、近年、子供の創造性教育や、新しい商品を生み出すための戦略として企業のミーティングなどでも活用されています。

拡散的思考力の評価は、思考の「①流暢性」「②柔軟性」「③非凡性」の3つの要素を主に重点においています。つまり、短時間にいかに沢山の案を創出し（流暢性）、一つのガイネンにこだわらず広い視点から問題を捉えることができ（柔軟性）、そして他にはないオリジナリティ溢れる案（非凡性）であることが、拡散的思考力を高めるために重要なのです。

近年の脳科学研究によると、この拡散的思考力が高いヒトは、脳のデフォルト・モード・ネットワークも強いことが知られています。これは内側前頭前野を含むネットワークで、自由に創造的な思考やアイデアを発想する時に活動するといわれています。このことから、神経生理学的にも拡散的思考が創造性を高めるために重要であることがわかります。

拡散的思考に対して収束的思考は、ある特定の問題を解決するために最適なタイプの思考です。拡散的思考に比べると創造性が弱い一方、論理的思考によって、一つの最適な解に正しく、かつ早く到達することができます。

新しい発想を無数に広げていく拡散的思考とは対をなすタイプの思考ですが、2つの思考は独立したのではなく、相互に関連し合っていると考えられています。例えば、前節で説明した、創造性が生まれる4段階の定義の「準備期→あたため期とひらめき期→検証期」のプロセスを考えてみて下さい。準備期では最適解を導こうと論理的・収束的思考を働かせるわけですが、あたため期やひらめき期では論理的思考から解放され、潜在的に自由な思考を働かせます。そしてひらめき期でひらめいた考えを他者によりの確に理解してもらうために、収束的思考を働かせて、具体案に落とし込みます。

このように、創造性が生まれる4段階を通して、「収束的思考→拡散的思考→収束的思考」と2つのタイプの思考が連鎖しているのがわかります。拡散的思考だけではアイデアがまとまりませんし、収束的思考だけでは新しいアイデアは生まれません。両方の思考を上手く使いこなすことによって、新しいアイデアが生まれ、そしてそのアイデアが他人にもわかるようになるのです。

ここ数十年、拡散的思考をするためのトレーニング法が世界中で数多く提案され、多くの成果を残してきました。一方、これらは、創造性を生み出すために重要な拡散的思考を「意図的」にしようと

いう半ば強制的な手法ともいえます。A、トレーニングにより思考は鍛えられますが、一方的に「拡散的思考をしなさい」と強^イいられても、元々拡散的な思考が弱い人間にとっては難しいかもしれません。

従来から拡散的思考ができるトとは、なぜ拡散的思考ができるのでしょうか？ この節では、拡散的思考は本来どのようにして生まれてくるものなのかについて考えてみたいと思います。

拡散的思考が苦手な理由の一つとして、その思考が果たして、答えに近づいているか遠ざかっているか「不確実」である（不安である）ことが挙げられます。

収束的思考では、論理性という一つの自己納得するための切り札があり、なぜこの案が正しいのか、または間違っているのかを認識しながら「安心」して一歩ずつ進むことができます。それに対して拡散的思考は、B「間違っているかどうかはわからないがあんな案もあるしこんな案もある」と思いついたことを直感的にどんどん挙げていくので、他者からその案を非難されるかもしれないですし、非難された時にそれに対抗する論理的根拠が不確実（不安定）なわけです。非難されるのが怖いのは人間として当然のことです。それでも拡散的思考が自然と生まれてくる人は、その不確実で不安なことをもチヨウエツする「何か」があるのです。その何かとは、一体何なのでしょう。

本来、何かの問題に取り組む行為はエネルギーを多く消費しますので、世の中に存在する全ての疑問・問題に取り組むことはできません。取り組むべき問題を我々は選別しているのです。つまり、ある問題に直面した時に、その問題を解決したいという何かしらの理由があります。この理由が強いほど、問題解決への意欲も強くなり、解決によって得られる報酬も大きくなります。この、「意欲」と「報酬」の性質が重要になってきます。

また、拡散的思考をするか収束的思考をするかによっても報酬のタイプが変わってくるでしょう。もつとわかりやすくいえば、「意欲のタイプ＝モチベーションの持ち方」です。スイス・イタリアのダレモレ人工知能研究所のユルゲン・シュミットファーバー教授によると、報酬や意欲、興味などには、³拮抗する2つの側面があるとしています。

一つは、**内発的意欲（intrinsic motivation）**といいます。これは、達成感や充足感など、心の中から湧き出^ウるような喜びを報酬とし、そういった報酬（内発的報酬と呼ぶ）を目的とした意欲になります。外部から得られるお金や称賛とは対をなすもので、純粋に楽しさや知的好奇心を満たすための意欲ともいえます。社会心理学者グラハム・ワラスの創造性が生まれるプロセスのうち、第三段階の「ひらめき期」で起こるような、解決策が降ってきた時の喜び（アハ体験など）が内発的報酬となるのです。

一方、この内発的報酬の大きさは、喜びや驚きなど感情の変化の大きさと相関します。つまり、はじめから解決しやすい情報を選んで解決しても喜び（内発的報酬）はあまり大きくありません。むしろ、これまでは知らなかったような新しい（不確実な）情報を解決することで大きな報酬が得られるため、内発的意欲では、そういった不確実な情報に興味を持つようになります。ダレモレ人工知能研究所のユルゲン・シュミットファーバー教授によると、「創造性」は、この内発的意欲や興味の「⁴副産物」であるとしています。

内発的意欲に対して、**外発的意欲（extrinsic motivation）**というのがあります。これは内発的意欲

のような内部から湧き出る喜びそのものというよりは、金銭的報酬や他者からの称賛など、外部から提供されるような報酬（外発的報酬）を目当てに頑張るような意欲といえます。外発的意欲は、目的や目標が明確なので、より確実かつ効率的に目標達成するような行動をとります。C、内発的意欲のように、ちゃんと報酬を得られるかわからない不確実（不安定）な思考よりはむしろ、論理的で収束的な思考、つまり最適化・最効率化へと収束するような思考が強くなります。

こういった収束的思考により、外発的意欲は創造性を抑制させるのではと報告されています。しかしながら、内発的意欲だけで動く最終的に何も報酬を得られない可能性もあり、それこそ問題解決そのものの意欲を失ってしまうかもしれません。このように、両者の意欲や報酬を上手く相互作用させることで、問題解決に向けたパフォーマンスをあげていくのが良いでしょう。また、今自分がどちらの意欲で問題に取り組んでいるのかを自己認識することが重要だと考えられます。

第2章の「3. 記憶の不確実性」でも述べたように、脳の潜在学習には、不安定（不確か）な外界情報をできるだけ簡略にセイトンし把握しようとする機能が備わっています。これは内発的意欲や報酬と密接に関連しており、何か得体の知れない不安定な情報を理解し、不確実性を下げることで、「わかった！」という喜び（内発的報酬）が得られるのです。

ところが、一旦、情報の法則性を完全に把握してしまい、不確実性が完全になくなってしまった情報からは、もはやこれ以上の報酬を望めません。脳は、こういう情報をつまらない情報とみなしてしまいます。つまり、完全に理解した情報からは喜びという報酬を得られにくいので、内発的な意欲も生じにくくなるのです。

一方、新しい不確かな情報は得体が知れず不安ですが、なんとか努力して理解すれば非常に大きな内発的報酬が期待できます。この報酬の程度は、得る前からある程度予測できそうな外発的報酬（お金や称賛）とは違い、予測し得ない膨大な報酬が待っている可能性もあるので、味方につければ非常に強力です。難しければ難しいほど、もしそれを理解できれば喜び（内発的報酬）も大きいというわけです。

しかしながら、内発的報酬は、知ることでようやく得られる報酬です。つまり、あまりにも難易度（不確実性）が高すぎたりすることや、常に不確実だったりすることは十分に目を向けていても、理解しない限り報酬は得られません。よって、最大限に報酬を得られるために、⁵不確実性のバランスが大事なのです。脳は、生き甲斐や喜び、環境への興味を維持し続けていくために、収束的思考と拡散的思考を上手く利用して、最大限の報酬を探求しているのでしょう。

情報の確かさと不確かさのバランスを表現したものに、音楽の複雑性とシンビ的価値観や嗜好との関係性を表す「逆U字モデル」があります。このモデルは簡単にいうと、構造が単純すぎず、かつ難しすぎない中間の複雑性（不確実性）を持った音楽をヒトは最も好むということを表しています。つまり、ある程度馴染みがあるけれど時々予測できないような音と突然出会うことで、脳は「なぜその音が出てきたのか」という問題にあたり、その理由を知るために、その音楽に興味を持って聴くようになるのです。このように情報の確かさと不確かさの振動が音楽などの芸術的感性に^エ寄与すると考えられています。

確かさと不確かさのバランスを維持し続けるためには、確かな情報と不確実な情報を、しっかり区別できる能力も必要になります。つまり、既知情報をつまらない情報とみなすほどに正確に把握し、不確実（不安定）な情報が発生した際には、それが確かな情報とどのように関連しているかを把握することが重要なのです。どのようにすれば、そのような能力を会得できるのでしょうか。

ロンドン大学のマークス・ピース博士らによれば、音楽家は長期間の音楽訓練によって音楽普遍的な構造を脳内でモデル化しているといいます。そして音楽訓練や経験を通してモデルの複雑性（不確実性）を徐々に下げ洗練させていくことで、初めての音楽を聴いても予測しやすくなり、かつ新しい不確実な部分も認識しやすくしていると考えています。つまり、不確実な情報を不確実だと確実に認識し、そこから⁶感動を得るためには、一般的な（安定した）既知情報を、訓練や練習によって、しっかりとモデル化することが大切なのです。

いわれてみると、既存の音楽理論が確立されているにもかかわらず、シェーンベルグらの現代音楽作曲家は、わざわざ新たな理論を求めて12音技法のようなものを考えました。既存の音楽理論に飽きてしまい、もっと不安定な情報から膨大な報酬を得たいという気持ちから（**X**）、新たな手段を試みるのかもしれませんが。このように、ヒトの創造性には既存の知識の枠の中に表現を納めようとする表現意欲（**Y**）と、既存の知識から逸脱しようとする表現意欲（**Z**）の相反する二つの力が互いに引き合うような形で存在しているのです。

〈注〉 創造性が生まれる4段階の定義

社会心理学者グラハム・ワラスによる「創造性が生まれる4段階」。創造的な発想を生み出すためには、準備期（問題設定とその解決策の立案）、あたため期（問題から一度離れる）、ひらめき期（新たな発想・解決策が突然降ってくる）、検証期（明確な思想の完成）の4段階のプロセスが必要となる

アハ体験

解決策が突然意識に上がってきて強い喜びと確信を伴うこと

第2章の「3. 記憶の不確実性」

この本の第2章第3節が「記憶の不確実性」についての考察になっている

でも述べたように

12音技法

作曲技法の一つ

〔問1〕 二重傍線部 a～d に相当する漢字を含むものを、次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

a ガイネン

- 1 ズガイコツを骨折する
- 2 制度がケイガイカする
- 3 不公平な対応にフンガイする
- 4 ダンガイに荒波が打ち寄せる
- 5 キガイをもって困難に立ち向かう

b チヨウエツ

- 1 山頂からのチヨウボウを楽しむ
- 2 不正行為は厳しくチヨウカイする
- 3 今日之父のチヨウカはアジ三匹だった
- 4 世俗を離れチヨウゼンとした芸術家
- 5 陸上大会で高いチヨウヤクを連発する

c セイトン

- 1 起床後フトンをたたむ
- 2 ヨウトンギョウを営む
- 3 そうはトンヤが御さない
- 4 かぜを引いてトンプクヤクを飲む
- 5 部隊が島にチユウトンする

d シンビ

- 1 専門家によるシンギカイ
- 2 レントゲン画像を見てシンダンする
- 3 フキンシンな発言をしてしまった
- 4 戸締まりと火の元を確認しシユウシンする
- 5 敗戦のシンクをともに乗りきる

〔問2〕 二重傍線部 ア～エの漢字の読みを平仮名で記せ。(解答用紙 A)

ア 沢山 イ 強(い) ウ 湧(き) エ 寄与

〔問3〕 傍線部1「連鎖」とあるが、このことを説明している部分を、傍線部1より前の本文中から十三字以内で抜き出してそのままの形で記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。

(解答用紙A)

〔問4〕 空白部A・B・Cに入る最も適当な語の組み合わせを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|------|
| 1 | A | もちろん | B | かねて | C | よって |
| 2 | A | もちろん | B | かりに | C | しかし |
| 3 | A | もちろん | B | いわば | C | よって |
| 4 | A | よって | B | かねて | C | あるいは |
| 5 | A | よって | B | かりに | C | あるいは |
| 6 | A | よって | B | いわば | C | しかし |

〔問5〕 傍線部2「何か」とあるが、「何か」の具体的内容を端的に表している表現を、傍線部2より後の本文中から五字以内で抜き出してそのままの形で記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問6〕 傍線部3「拮抗する2つの側面」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 問題解決によって得られる、充足感や驚きを報酬とする意欲と、お金や称賛を報酬とする意欲という相反する2つの側面
- 2 問題解決によって得られる、達成感や喜びを報酬とする意欲と、金銭や称賛を報酬とする意欲という相互に働く2つの側面
- 3 問題解決によって得られる、喜びを報酬とする意欲の方が、金銭を報酬とする意欲よりも、創造性を生み出すために有効であるという優劣の見られる2つの側面
- 4 問題解決によって得られる、内部から湧き出る喜びといった報酬と、問題を解決したいという知的好奇心を満たす意欲という相関する2つの側面
- 5 問題解決によって得られる、内部から湧き出るモチベーションと、オリジナリテイ溢れるアイデアという創造性を生み出すために不可欠な2つの側面

〔問7〕 傍線部4「副産物」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 「創造性」は、内発的意欲による拡散的思考のあとに得られるものなので、パフォーマンスを上げるのに重要なものではないということ
- 2 「創造性」は、内発的意欲と外発的意欲のどちらの意欲で問題に取り組んでいるのか認識することで生まれるものであるということ
- 3 「創造性」は、創造性が生まれる4段階の定義のうち、あたため期やひらめき期、つまり2段階目と3段階目に生まれるものであるということ
- 4 「創造性」は、内発的意欲と外発的意欲を合わせて問題を解決することによってはじめて生まれるものであるということ
- 5 「創造性」は、内発的意欲や興味をもって新たな問題に取り組むことに付随して得られるものであるということ

〔問8〕 傍線部5「不確実性のバランスが大事なのです」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 内発的報酬を少しでも多く得られる初めて出会う問題が最良である
- 2 内発的報酬が得られる程度に不確かで難しい問題が最良である
- 3 不確かな情報と確かな情報を区別できる問題が最良である
- 4 外発的報酬よりも内発的報酬を多く得られる未知の問題が最良である
- 5 完全には理解することのできない不確実さが残る問題が最良である

〔問9〕 傍線部6「感動を得る」とあるが、音楽家は初めての音楽を聴いて、どのように感動すると筆者は説明しているか、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 既知情報と新情報を正確に区別するという音楽情報処理を行い、新情報を短時間でオリジナルテイのある案だと認識することによって感動する
- 2 脳内で作成した音楽モデルを手がかりに、次に何の音がくるかを予測し、確かさと不確かさのバランスがとれることによって感動する
- 3 新情報の多い予測できない音楽に出会い、新情報を何とか解決しようとするモチベーションが一定期間保たれることによって感動する
- 4 長期間の音楽訓練により音楽モデルの楽譜を作成し、その作成した楽譜をもとに既知情報と新情報を正確に区別することによって感動する
- 5 音楽訓練や経験により作成した不確実性の低い音楽モデルと、既存の音楽理論とを合わせ、新情報を広い視点から捉えることによって感動する

〔問10〕 空白部X・Y・Zに入る最も適当な語の組み合わせを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | X | 外発的意欲 | Y | 外発的報酬 | Z | 内発的報酬 |
| 2 | X | 外発的意欲 | Y | 内発的報酬 | Z | 外発的報酬 |
| 3 | X | 外発的意欲 | Y | 拡散的思考 | Z | 収束的思考 |
| 4 | X | 外発的意欲 | Y | 収束的思考 | Z | 拡散的思考 |
| 5 | X | 内発的意欲 | Y | 外発的報酬 | Z | 内発的報酬 |
| 6 | X | 内発的意欲 | Y | 内発的報酬 | Z | 外発的報酬 |
| 7 | X | 内発的意欲 | Y | 拡散的思考 | Z | 収束的思考 |
| 8 | X | 内発的意欲 | Y | 収束的思考 | Z | 拡散的思考 |

〔問11〕 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 近年の研究で創造性を高めるためには拡散的思考が重要であることが指摘され、子供の創造性教育や企業のミーティングでも用いられるようになった
- 2 効率よく問題解決に至るには、拡散的思考と収束的思考を状況に合わせて使い分けることが重要であり、これは創造性が生まれる4段階にもあてはまる
- 3 情報の確かさと不確かさを区別する能力があれば、情報の確かさと不確かさのバランスを保つことができ、結果的に最大限の報酬を得ることにつながる
- 4 ヒトが中間の複雑性を持った音楽を好む傾向にあるのは、不確実性がそれほど高くない問題を解決したいと興味をもつからであり、これは「逆U字モデル」からも明らかである
- 5 ヒトが音楽に感動するのは、予測できない音を少しでも簡略に把握しようとする脳の機能が働くからであり、トレーニングによって鍛えられないものである

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

栗田讃岐守兼房といふ人ありけり。年ごろ、和歌を好みけれど、よろしき歌もよみ出ださざりければ、心に常に人麻呂を念じけるに、ある夜の夢に、西坂本とおぼゆる所に、木はなくて、梅の花ばかり雪のごとく散りて、いみじく香ばしかりけり。心にめでたしと思ふほどに、かたはらに年高き人あり。直衣に薄色の指貫、紅の下の袴を着て、なえたる烏帽子をして、烏帽子の尻、いと高く、常の人にも似ざりけり。左の手に紙を持て、右の手に筆を染めて、ものを案ずる気色なり。あやしくて「たれ人にか」と思ふほどに、この人いふやう、「年ごろ、人麻呂を心に懸け給へる志深きによりて、形を見え奉る」とばかりいひて、かきけつやうに失せぬ。

夢覚めてのち、あしたに絵師を呼びて、このありさまを語りて、書かせけれど、似ざりければ、たびたび書かせて似たりけるを、宝にして、常に礼しければ、そのしるしにやありけむ、さきよりもよろしき歌、よまれけり。年ごろありて、死なむとしける時、白河院に参らせたりければ、ことによるこぼせ給ひて、御宝の中に加へて、鳥羽の宝蔵に納められにけり。

六条修理大夫顕季卿、やうやうにたびたび申して、申し出だして、信茂をかたりて、書き写して持たれたりけり。敦光に讃作らせて、神祇伯顕仲に清書させて、本尊として、はじめて影供せられける。時に、婿たち多けれども、その道の人なればとて、俊頼朝臣ぞ陪膳はせられける。さて、年ごろ、影供をおこたらざりけり。

末に長実、家保などをおきて、三男顕輔、この道にたへなりければ、譲り得たりけるを、院に参らせたりける時、御感ありけるを、長実、御前に候ひけるが、そねむ心やありけむ、「人麻呂の影、それ益なし。めづらしき文あらば、色紙一枚には劣りたり」とつぶやきたりければ、院の御気色かはりて悪しかりければ、立ちけるを召し返して、「なむぢはいかでか、わが前にてかかることをば申すぞ。みなもと夢より起こりて、あだなることなれど、兼房、さるものにて、ことのほかにうけることはあらじと思ひて、われ、すでに宝物の内に用ゑて、年ごろ経にたり。なむぢが父、ねんごろにこれを営みて、久しくなりぬ。かたがた、いかでかをこづくべき。かへすがへす不当のことなり」とて、いみじくむつからせ給ひければ、はふはふ出でて、年なかはりは門さして、音だにせられざりけり。これにつけても、かの影の光になりけるとなむ。

(『十訓抄』による)

〔注〕 栗田讃岐守兼房	藤原兼房。平安時代の歌人
人麻呂	柿本人麻呂
西坂本	現在の京都市左京区
白河院	白河上皇
鳥羽	現在の京都市伏見区にある白河院の鳥羽離宮
六条修理大夫顕季卿	藤原顕季。平安時代の公卿、歌人
敦光	藤原敦光。平安時代の学者
讃	書画に、人や事を褒めたたえることばを書いた文章
神祇伯顕仲	源顕仲。平安時代の歌人
影供	神仏や故人の絵像に供物をささげて祭ること
俊頼朝臣	源俊頼。平安時代の歌人
陪膳	神仏に供え物をする人

〔問1〕 波線部ア「直衣」イ「烏帽子」の読みを、現代仮名遣いの平仮名で記せ。(解答用紙A)

〔問2〕 傍線部1「このありさま」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 夢で、梅の木から花が雪のように散ってよい匂いが漂っているところで素晴らしい景色だと思っていると、そばに薄色の袴を着た人がいて、いつも人麻呂のことを深く心に懸けてこられたので姿をお見せするのだと言って、少しずつ消えていった
- 2 夢で、木の姿は見えず梅の花が雪のように散ってよい匂いが漂っているところで素晴らしい景色だと思っていると、そばにとっても位の高そうな人が立って、長い間人麻呂のことを大変心に懸けてこられたので姿をお見せするのだと言って、少しずつ消えていった
- 3 夢で、梅の木から花が雪のように散ってよい匂いが漂っているところで珍しい景色だと思っていると、そばに紙と筆を持った人が立って、近頃人麻呂のことを大変心に懸けておられるので姿をお見せするのだと言って、すぐに消えた
- 4 夢で、木の姿はなく梅の花が雪のように散ってよい匂いが漂っているところで珍しい景色だと思っていると、そばに老いた人がいて、近頃人麻呂のことを深く心に懸けておられるので姿をお見せするのだと言って、瞬く間に消えた
- 5 夢で、木の姿はなく梅の花が雪のように散ってよい匂いが漂っているところで素晴らしい景色だと思っていると、高齢の不思議な人がいて、長年人麻呂のことを深く心に懸けてこられたので姿をお見せするのだと言って、すぐに消えた

〔問3〕 二重傍線部 a～f の敬語の種類について最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、その番号をマークせよ。ただし、同じものを二度以上使用してもよいものとする。(解答用紙 B)

- 1 尊敬語 2 謙讓語 3 丁寧語

〔問4〕 傍線部 2 「この道にたへなりければ」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 絵の道に忍耐強く励んでいた
2 絵の道に少し知識があった
3 仏の道の厳しい修行に耐えていた
4 仏の道を立派に登りつめていた
5 歌の道をやめずにかんばっていた
6 歌の道にきわめて優れていた

〔問5〕 傍線部 3 「あだなる」を七字以内で現代語に改めよ。(解答用紙 A)

〔問6〕 傍線部 4 「うけることはあらし」とあるが、その意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 受け継ぐことはないだろう
2 笑い話ではないだろう
3 根拠のないことではないだろう
4 評判になることはないだろう
5 承諾することはないだろう

〔問7〕 傍線部5「年なかばばかりは門さして、音だにせられざりけり」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 長実は、弟の顕輔が白河院の御所へ参上して才能を褒められたねたみから、父兼房が院に献上した人麻呂の絵像を嘲笑するようなことを言つて、白河院を激怒させてしまったから
- 2 長実は、兄の顕輔が顕季から譲られた人麻呂の絵像を院に献上したとき、顕輔へのねたみから人麻呂の絵像を侮辱するようなことを言つて、白河院をあきれさせてしまったから
- 3 長実は、兄の顕輔が白河院の御所へ参上して才能を褒められたねたみから父兼房が院に献上した人麻呂の絵像をけなすようなことを言つて、白河院を不快にさせてしまったから
- 4 長実は、弟の顕輔が顕季から譲られた人麻呂の絵像を白河院に献上したとき、顕輔へのねたみから人麻呂の絵像をけなすようなことを言つて、白河院をひどく怒らせてしまったから
- 5 長実は、兄の顕輔が俊頼から譲られた人麻呂の絵像を白河院に献上したとき、顕輔へのねたみから人麻呂の絵像を侮辱するようなことを言つて、白河院の不興を買ってしまったから

〔問8〕 傍線部6「なむ」と文法的に同じものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆきまたなむ
- 2 いで、なほこながら死なむと思へど
- 3 我が口あけては、おのが主は人にてはありなむや
- 4 はや夜も明けなむと思ひつつゐたりけるに
- 5 雲の上も海の底も同じことくになむありける

〔注意〕 記述式で解答する場合は解答用紙 A を、マーク式で解答する場合は解答用紙 B を使用せよ。

- 1 次の文章は上原麻有子の文章「広がる翻訳の思想への試論」の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

セルジユ・アンベールは、二〇〇九―二〇一〇年、ロシアの伝説的な舞踊家・振付家であるニジンスキーの『手記』に没頭し研究する。この『手記』とは、ニジンスキーが精神の病を得て、バレエの世界を引退しスイスに移った後、一九一九年一月一九日―三月四日に書かれた、自己分析と言える記録のことである。アンベールは、「この巨大な創造者が、狂気という闇の中に転がり落ちたことを証言」した『手記』から滋養を摂るのだが、それが彼のソロの舞踊、『天空のただなかに一飛びするよう』(以下『天空』)の創作へと結びついたのである。この作品は、実は、そこにニジンスキーが綴った「感動でときめき弾むような、また不安と惨めさに満ちた、あらゆる身体の状態を表わす文章」のアンベールによる「私の翻訳」から成っているのだという。ここで取り上げるアンベールの「テキストから身体へ」は、このように紹介されている。彼は「私の翻訳」だと述べているが、もちろんロシア語の原著からのフランス語への翻訳という意味ではない。ではこの「翻訳」とは何であるのかを、「テキストから身体へ」から読み取ってみたい。

この小さなテキストには、何を書くのが目的であるかなど一切記載されていないが、冒頭から、アンベール自身の作品『天空』の舞台装置と予測できるものが列挙される。「椅子一脚。そこに横たわるベッドも一台。劇場の舞台はむき出し。この二つのみの道具の周辺に宿ってくるはずの欠如感。この欠如感から気をそらすようなものは、一切取り除かれる」。続く叙述では、『手記』を再読する彼がニジンスキーの言葉を次々と追いつき、そこに没入し、そして何かを見るのである。以下の引用で示す。

「言葉を」奪われ、「言葉に」直面する者にとって、唯一の支えがあるとしたら、それは、踊る身体とは考える身体であるという確信であった。「(…)私は感じるから踊るのであって、人に期待されるからではない」。『手記』の初めの方の文章を読み直しながら、この言葉に至るや強いショックを感じた。

それは、避け難いショック。そしてそれに続いてテキストを感じるのである、彼が語ること、あるいは隠すことを、彼の全身に、そして彼のセンサイさ、自白、後悔の中に強く感じ取るのだ。文筆家のものとは異なるニジンスキーのシンタクスを、その最深部までニジンスキーで満たすために。

その瞬間から、言葉、つらなる言葉、ラングが、匂い、風味、あるいは織り目、色として受け入れられ、感知される。しかし、学位論文や条約文に属するような、組織され閉じた空間としてではないのだ。(…)言葉、つらなる言葉、ラングが、その動きの中に私たちを巻き込むのだが、それ

らは満たすべき空虚とそこに落ちてゆく深淵との間で、しばしば私たちよりも速く移りゆく。そもそも、この「言葉の重み」をどのように感じ取ればよいのか。

アンベールは、新しいソロ作品を構想するという目的をもって、ニジンスキーの『手記』を読んでいるのだが、しかし、むしろ言葉を、テキストを「感じる」、「感じ取る」というのだ。身体表現者である彼^Kにしてみれば、通常の創作活動で行っている、*interpréter* に向うプロセスであるのかもしれない。これは「解釈する」を意味するフランス語の動詞であるが、音楽家が「演奏する」、^bハイユウが「演じる」という用法もある。では、なぜ彼の作品は「私の翻訳」であるのか。

interpréter に向いながら、アンベールは、ニジンスキーの「言葉の重み」をまず一度知的に消化することさえ拒否しているかのようであるが、実はテキストを再読する際、「言葉の重み」を解釈することは不可能であることが見えただろう。「空の重みと同様にほとんど形容しようのない言葉、沈黙する、寄せつけない言葉、そういう言葉の重みの中に飛び込むことを受け入れるしかない、その言葉と身体の一体になるためには」。これは、どうにも歯が立たない言葉を前にした読み手の敗北、自己放棄と理解できる。アンベールは、言葉の意味を探るなど意味をなさない「むしろ肉側」まで沈み込む。読み手の立場から一転して、「生きたまま言葉のシンオウ^cに閉じこもるまで」、ただ「書き手の肉体を感じる」のみとなるのだ。ある「狭き門を越える」と、書き手が生きて、表現しようとしたことにさらに近づき、遂にはそこに宿るまでに至る。

アンベールによれば、身体^dの動きによる表現者は、一瞬にして、書かれたことと共感するのである。しかし、「言語表現自体とか語彙^eの制限に捕らわれている言葉」ではなく、「ある言葉に、ある文に、そして結局はある身振りに執着する者の直観」と共感するのである。ニジンスキーの「踊る身体とは考える身体である」ということを、身体をもって会得したかのようだ。「共感する」とは、身体が「理解する」、「考える」ことなのではないか。

「共感する」身体は、ではどのように表現するのだろうか。「それぞれの動きの詳細はいずれも、重きをなし、意味をもたなければならない」、「感情に任せて」動くのではない、「身体をペンとして用い、書き続けるのだ」。アンベールは、ニジンスキーの「暗闇の狂気に向かう途上」、「私の身体は服従し、私を導くのだ」と言う。

このように読んでくると、身体はテキストを翻訳する、そして身体で翻訳表現する、ということ肯定せざるを得なくなる。ニジンスキーにアクセスする入口には、見たところ言語現象としての言葉があるが、その根柢^fにあるがままのものを、身体で記述する。言うまでもなく、通常は「踊る」ということであろう。与えられるものをそのまま身体が書くのである。アンベールは、身体が創作するということは、ことさら言わず、ただひたすら記述するのである。論者は、アンベールの文章をこのように理解し、そして「翻訳」という問題を論じる一つの新たな切り口を示されたような気がしている。身体が翻訳するというのは比喩ではなく、翻訳は身体によってなされるのではないか。

「身体は翻訳するのか」という問題を、ここでは西田幾多郎^gの哲学を手がかりに考えてみよう。日本の近代哲学を牽引した西田哲学と「踊る身体」、翻訳の関連を咄嗟^hに思い描く読者はまずい

あろう。西田の「行為的直観」は、世界において私^U身体的存在が物を作るという契機を特徴として
もつ論理である。形成的、制作的、あるいは創造的行為の論理とも言える。同時に、そこには技術が
付随するのだが、言葉はその一種ということになる。では、どのような構造を備えた論理であるのか
を説明してゆこう。

「行為によって物を見、物が我を限定すると共に我が物を限定する。それが行為的直観である」。こ
の行為的直観の定義にしたがえば、「**U**」を作るのは「**V**」であるが、この
「**W**」は、対象に対し、対象を作るだけの主体ではない。「**X**」は作った
「**Y**」からまた限定される、様々な意味での変更を加えられるのである。要するに、「我」と
「物」とは相互に作られ作る関係、相互に形成し、創造し合う弁証法的な関係にある。そして、物が
作られるには、必ず身体がなければならないのだ。

「行為」という観点からは、次のように言われている。「行為というのは、我々が物の世界に於てあ
るから起るのである。行為の起るには、物がなければならない。物は考えられたものでなく、見られ
るものでなければならない、歴史的に形成せられたものとして現れたものでなければならない」。日
常の世界において、私たちは様々な「物」に囲まれて生きている。食材を調理し、料理を作る、花を
生ける、車を運転する、本を読む。いずれも物があるから起る行為である。その場合、「物」は、
「我」が対象として外的に認識するのではなく、「見られる」つまり「直観される」のである。「我々
の身体は動くものであると共に見るものである」からだ。この直観と行為の相即性、**Z**性が、
行為的直観のあり方を際立たせている。「我」と「物」との関係からはそう言えるのだが、もう一方
で、その関係の行為的直観は、両者がおかれている世界に視点を移すと、歴史的現美自体の一つの限
定として「現れたもの」ということになる。

アンベールが『手記』に読むニジンスキーの言葉に共感し、身体がそれを書く、表現するというの
は、言葉という物を直観し、身体がその直観の内容を書く、翻訳するということなのではないか。行
為的直観は、日常生活に根ざした諸々の行為に認めることができるかと理解して差しつかえないのだが、
さらに西田は、芸術的行為のようなより特別な行為にも、積極的に適用しようとする。「表現作用的
としての我々の身体というものがあるのである。(…)芸術的作品が芸術家の身体の延長と云つたの
も、此の意味に於てである」。表現する身体、関連して「行為は実践であり、制作である」というこ
とが、強調される。

「身体が見る」ということについて、さらに西田のシサクを辿ろう。「見るものとなるということは、
創造的となることである、創造的世界に於ての創造的要素となることである。(…)それは従来、人
の考える様に、身体がなくなるとか、自己がなくなるとか云うことではなくして、却つて真の生命が
自己に漲ることではなければならない。(…)創造的要素として身体的に見る私に対しては、世界は表
現的となる。物は生命の表現として現れる。⁴表現が我を動かすと云うのは、かかる立場に於て云い得
るのである。見るというのは、身体を以て見るのである。身体なくして見るということは考えられな
い」。見る自己が世界の「創造的要素」となる、相即的に「世界が表現的」となり、物そのものが現
れる、という感覚は、アンベールがニジンスキーの狂気に近づく途上、「私の身体は服従し、私を導

くのだ」と述べていたことに、⁵親和的であると言えよう。「私」という自己が表現する、創造するという能動的意識はもはやそこでは意味をなさないかのようである。むしろ「表現が我を動かす」のである。「私」という意識は忘却され、代りに身体が見るのだ。アンベールによれば、身体が「私を導く」のである。

〈注〉セルジュ・アンベール フランスの舞踊家・振付家

テキスト テキストに同じ。作品

シンタクス 単語などの言語単位を配列して文を作るための、順序・支配関係などの規則の総体

ラング 各個人に内在している制度化された言語体系

弁証法 古代ギリシア哲学や近代ドイツ哲学の用語

相即 対立するよう見える二つの事象が実は違いがないこと

〔問1〕 二重傍線部 a～d に相当する漢字を含むものを、次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

a センサイ

- 1 その魚はセンドが命だ
- 2 担任の先生にスイセンシヨを書いてもらう
- 3 チンセンした面持ち
- 4 その県はセンイ業が盛んだ
- 5 平城京にセントした年を暗記する

b ハイユウ

- 1 スウハイの対象
- 2 人々がシユクハイをあげる
- 3 退職後にハイクをたしなむ
- 4 有名人がハイシユツする
- 5 ハイタテキ経済水域

c シンオウ

- 1 チユウオウ分離帯に気を付けよう
- 2 彼はとても好奇心オウセイだ
- 3 オウインの理解は漢詩学習の基本だ
- 4 窓からオウライをぼんやりと眺めていた
- 5 その流派のオウギをきわめたい

d シサク

- 1 ふたりの思いがコウサクする
- 2 その本のサクインを作り上げる
- 3 彼のサクリヤクにはまってしまった
- 4 たくさんのオレンジの実をアツサクする
- 5 昨夜書いた文章をテンサクしてもらう

〔問2〕 二重傍線部 ア～エの漢字の読みを平仮名で記せ。(解答用紙 A)

ア 舞踊 イ 匂(い) ウ 語彙 エ 付随

〔問3〕 傍線部1「滋養を摂る」とあるが、それはどのような行為か。左の空白部を埋める形で、本文中から抜き出して答えよ。ただし、十字以内とし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

アンベールは、する目的を果たすために、『手記』を読んだ

〔問4〕 二重傍線部E～Kの「彼」は、ニジンスキーかアンベールかのいずれかである。それらの「彼」を適切に表している組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 〔ニジンスキー ≡ E F G〕 ・ 〔アンベール ≡ H I J K〕
- 2 〔ニジンスキー ≡ E F G H I J〕 ・ 〔アンベール ≡ K〕
- 3 〔ニジンスキー ≡ E F G K〕 ・ 〔アンベール ≡ H I J〕
- 4 〔ニジンスキー ≡ F H〕 ・ 〔アンベール ≡ E G I J K〕
- 5 〔ニジンスキー ≡ F H K〕 ・ 〔アンベール ≡ E G I J〕
- 6 〔ニジンスキー ≡ G H J〕 ・ 〔アンベール ≡ E F I K〕
- 7 〔ニジンスキー ≡ G H K〕 ・ 〔アンベール ≡ E F I J〕
- 8 〔ニジンスキー ≡ H〕 ・ 〔アンベール ≡ E F G I J K〕
- 9 〔ニジンスキー ≡ H I J〕 ・ 〔アンベール ≡ E F G K〕

〔問5〕 傍線部2「なぜ彼の作品は「私の翻訳」であるのか」とあるが、筆者は自分自身のこの問いにどのように答えているか。最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 アンベールは言葉に残されたニジンスキーの身体の動きを理解することによってニジンスキーの業績に共感することができ、ニジンスキーの存在を後世に伝えることができたから
- 2 アンベールはアンベール自身の身体の動きの綿密な分析を実行することでニジンスキーの精神に共感することができ、ニジンスキーを評価する文章を成すことができたから
- 3 アンベールはアンベール自身の身体が理解することをとおしてニジンスキーが残した言葉に共感することができ、ニジンスキーの言葉を会得し表現することができたから
- 4 ニジンスキーはニジンスキー自身の精神と身体の共感を感情的な所作によって作品化することで成功を収め、アンベールはこの比類なき手法に心から共感することができたから
- 5 ニジンスキーはニジンスキー自身の天才的な身体の活動をとおして後世に技術を残し、アンベールはその至高の技術に共感しさらに技術を向上させて継承することができたから

〔問6〕 傍線部3「牽引した」とあるが、その本文中の意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 弟子たちとの縁を完全に切って学会への不参加を貫いた
- 2 その学問の世界の先頭に立ち他の研究者を率いて導いた
- 3 自らの研究の人気が出るよう世の人の気持ちを引き寄せた
- 4 自分の論文が引用されるように他の研究者を牽制し続けた
- 5 他の研究者との確執を長い期間にわたって引きずった

〔問7〕 空白部U、Yを埋める語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | U | 我 | V | 物 | W | 我 | X | 物 | Y | 我 |
| 2 | U | 我 | V | 物 | W | 物 | X | 物 | Y | 物 |
| 3 | U | 我 | V | 物 | W | 物 | X | 我 | Y | 物 |
| 4 | U | 物 | V | 我 | W | 物 | X | 物 | Y | 我 |
| 5 | U | 物 | V | 我 | W | 我 | X | 物 | Y | 我 |
| 6 | U | 物 | V | 我 | W | 我 | X | 我 | Y | 物 |

〔問8〕 空白部Zには四字熟語が入る。次の中から漢字を選び、最も適当な四字熟語を完成させて記せ。ただし、同じ漢字を複数回用いてもよいものとする。(解答用紙A)

健 実 体 鳥 裏 因 報 花 風 剛 表 月 一 質 応

〔問9〕 傍線部4「表現が我を動かす」とあるが、この説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 創造的世界においては創造的要素となり得る自己の身体を意識は忘却され自己という存在が希薄になることによつて、かえつて強く真の生命がその身体に宿る。その創造的要素たる自己の表現であるゆえに、自己を感動させる
- 2 芸術家は芸術的作品が芸術家の身体の延長であるという感覚を常に保持できる点で創造的世界における創造的要素となり得るのである。そのような彼ら芸術家の表現が西田幾多郎自身の表現意識をも突き動かす
- 3 創造的世界において創造的要素となる自己の身体には真の生命が満ちあふれ、そのような創造的要素である身体から見られる世界は表現的となり生命の表現として現れる。だからこそ、その世界の表現は自己を活動的にさせる
- 4 表現は身体がおこなう行為であるので最も直観に根ざした行為であり、その点で創造的世界における創造的要素が最も発動したものである。その発動による相乗効果によつて西田幾多郎自身の表現の直観も発動する
- 5 アンベールはニジンスキーの『手記』の表現を分析しその創造的世界を理解することで創造的要素を体現できた。これと同様に西田幾多郎自身も芸術家による芸術作品の表現の創造的世界を直観することで一層の芸術運動を推進する

〔問10〕 傍線部5「親和的」とあるが、筆者は本文中でこの語をどのような意味で用いているか。その意味を説明し得る例文として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙B)

- 1 江戸の市井の民は、秋祭りなどの年中行事によつてその親睦を深めていた
- 2 和歌と現代歌謡曲の歌詞は一見異なるように見えるが、実は通底している
- 3 小さな孫がよちよち歩きをするのを見て、祖父の胸はぐつと熱くなった
- 4 化学的事実に即せば、水素は酸素と非常に結合しやすい性質を持っている
- 5 長い間敵対していた両国の代表が会談し、待ちに待った和睦が成立した

〔問Ⅱ〕 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 セルジユ・アンベールは、ロシアの著名な舞踊家・振付家であるニジンスキーの著書『手記』の翻訳を二十世紀初頭に見事に成し遂げ刊行したばかりでなく、その翻訳の経験を自らの作家としての業績にも活用した
- 2 ロシアの著名な舞踊家・振付家であるニジンスキーは、「空の重みと同様にほとんど形容しようのない言葉、沈黙する、寄せつけない言葉、そういう言葉の重みの中に飛び込むことを受け入れるしかない」という名言を我々に残してくれた
- 3 日本の江戸時代の京都において活躍し日本を代表する哲学者となった西田幾多郎は、「私は感じるから踊るのであって、人に期待されるからではない」とその著書『手記』の中ではつきりとした論調で述べている
- 4 西田幾多郎は、行為というものは我々が物の世界に存在するから起こるのであり、行為が起こるためには物がなければならぬと述べ、その物は見られるもの、歴史的に形成されたものとして現れたものでなければならぬと述べている
- 5 西田幾多郎の説く「行為的直観」の論理は、芸術的行為のような特別な行為においてこそ適用されるものであり、食材を調理したり、車を運転したり、本を読むなどの日常的行為には適用することが困難である

国語の試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

三十一文字の歌の初めは、さらに申すもこと旧りにたれど、素戔嗚尊の出雲の国に渡りて、宮造りし給ふ時、八色の雲のたちけるに詠み給へる歌、

八雲たつ出雲八重垣妻籠めに八重垣作るその八重垣を

天つ神の御孫、海神姫に住み通ひ給ひけるを、鵜羽葺不合命を産み置き奉りて、海神の宮に帰り給ひにける時、詠み給へる御歌、

沖つ鳥嶋つく島に我が率寝し妹は忘れし世のことごとに

かく詠み給ひたりければ、豊玉姫の御返し、

赤玉の光はありと人は言へど君が装ひし尊くありけり

となむありける。これらは、神代のことなるべし。

人の世となりては、大鷦鷯帝と申しける、皇子におはしましける時、同じき御弟宇治若子と申しけると、位を互に譲り給ふとて、難波におはしましけるを、位につき給ふべきこと近くなりける時、王仁といふ人の詠みて奉りける歌、

1 難波津に咲くやこの花冬籠り今は春べと咲くやこの花

これは、人の世となりて、神武天皇より十六代にやおはしますらむ。応神天皇と申すは、宇佐宮八幡大菩薩におはします。その御子を大鷦鷯皇子と申しけるなり。これを仁徳天皇と申す。

位につき給ひて高殿に登りて民の家々を御覧じつかはすに、2 民の家に煙立たず。嘆きて宣はく、「民の家に煙立たず。近き国だにかかり。まして、遠国に如何ならむ。今三年は国々貢物な奉りそ。御膳・御服・御殿の事、ただかくてありなむ」と。三年過ぎて、また高殿に登りて御覧するに、民の家々皆煙立ちのぼりけり。御覧じて、3 民言めり。我すでに富みぬ」とて、詠み給へる御製なり。

高き屋に登りて見れば煙たつ民の竈は賑はひにけり

さて、民ども参りて、「今は三年すでに過ぎにけり。貢物供へ奉らむ」と。帝仰せられて曰く、「なほ、今四年は貢物な奉りそ」と。「七年を過ぐしてを奉れ」と。七年過ぎにければ、国々の民、老いたる若きをいはず、材木を肩にかけて、競ひ参りて、宮造り程なくしけりとなむ。

この帝は、位におはしますこと八十七年なり。すべて御年は百二十七年なむおはしましける。

(『古来風躰抄』による)

〔注〕素戔嗚尊	伊弉諾尊・伊弉冉尊の子。天照大神の弟
出雲	現在の島根県
天つ神の御孫	彦火々出見尊
宇治若子	菟道稚郎子
難波	現在の大阪市
王仁	百濟の人
宇佐宮八幡大菩薩	現在の大分県宇佐市にある宇佐神宮
高殿	高い建物。高樓

〔問1〕本文に見出しをつけるとすれば、どのようなものがふさわしいか。最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 文字の誕生
- 2 和歌の歴史
- 3 神話の定義
- 4 天皇の系譜
- 5 宮殿の造営

〔問2〕二重傍線部 a～c は誰をさしているか。最も適当な組み合わせを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- | | | | |
|---|----------|----------|--------|
| 1 | a 海神姫 | b 天つ神の御孫 | c 大鷦鷯帝 |
| 2 | a 鵜羽葺不合命 | b 素戔嗚尊 | c 宇治若子 |
| 3 | a 豊玉姫 | b 天つ神の御孫 | c 応神天皇 |
| 4 | a 海神姫 | b 鵜羽葺不合命 | c 素戔嗚尊 |
| 5 | a 鵜羽葺不合命 | b 素戔嗚尊 | c 大鷦鷯帝 |
| 6 | a 豊玉姫 | b 天つ神の御孫 | c 素戔嗚尊 |
| 7 | a 海神姫 | b 鵜羽葺不合命 | c 宇治若子 |
| 8 | a 鵜羽葺不合命 | b 素戔嗚尊 | c 応神天皇 |
| 9 | a 豊玉姫 | b 鵜羽葺不合命 | c 大鷦鷯帝 |

〔問3〕 傍線部1の和歌の本文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 難波津に花が咲いている、冬籠もりしていたが、今こそ春が来たと花が咲いているよ、そのように、今こそ皇位に着く時機が来ているよ
- 2 難波津に花が咲くのか、冬籠もりしたままなのか、今こそ春が来ると花が咲くよ、そのように、皇位を継ぐべき人物の疑いを晴らす時節が来ているよ
- 3 難波津に花が咲くので、冬籠もりが終わったのか、今は春が近いと花が咲くのでわかった、そのように、天皇の宮殿にひそむ問題を明らかにするべき時代が来ているよ
- 4 難波津に花が咲くのか、いや冬籠もりが続くのか、今は春が近いと花が咲いているのだ、そのように、兄弟が互いの不信感を胸に秘めて和解する好機が来ているよ
- 5 難波津に花が咲いている、冬籠もりが続いていたが、今は春が来たと花が咲いているよ、そのように、兄弟の皇位継承をめぐる争いに終止符を打つ時が来ているよ

〔問4〕 傍線部2「民の家に煙立たず」とあるが、帝はこのことをどのように捉えているか。最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 まだ攻め切れていない民の家があり、悔しい思いを抱いている
- 2 大火事で焼け残った民の家があり、悲嘆に暮れながらも安心している
- 3 炊事をしていない民の家があり、残念なことだと心を痛めている
- 4 うわさに惑わされない民の家があり、頼もしいことだと感嘆している
- 5 命令に従わない民の家があり、監視の目が届かないことに落胆している

〔問5〕 傍線部3「民富めり。我すでに富みぬ」とあるが、本文中の意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 民は富んだ。しかし自分はおともと富んでいない。とはいえこれから富むだろう
- 2 民は富んでいる。すぐに自分も富むことになる。なんとかそうなつてほしい
- 3 民は富んだ。そして自分は以前の方が富んでいた。だがこのままでよいのだ
- 4 民は富んでいる。ということは自分もはや富んでいる。だからこれでよい
- 5 民は富んだ。まだ自分もいつの間にか富んでいた。これからはさらに富むべきだ

〔問6〕 傍線部4「に」の文法的説明を、次の空白部X・Y・Zを埋めるかたちで答えよ。ただし、Yには終止形を記せ。(解答用紙A)

(例) 受け身の助動詞「る」の命令形

Xの助動詞「Y」のZ形

〔問7〕 本文を二つに分けるとすれば、後半はどこから始まるか。最も適当な段落のはじめの五字を本文中から抜き出し、そのままの形で記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問8〕 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 三十一文字の歌は古代から天皇の宮造りの成功を祈るものであったが、やがて子孫の繁栄や、民の暮らしの発展への祈りもこめるようになった
- 2 三十一文字の歌には古代から季節を表す語句と、人の心情を仮託する動植物の名称、そして民を統治する優れた知恵とが含まれていた
- 3 帝は高樓から繰り返し眺望することによつて他国の豊かさを学び、衣食住の水準の目標に定めることで、自国の発展を成し遂げた
- 4 戦乱で荒廃した民の生活も、帝が民に貯蓄させた富のおかげで、七年を経過する頃には宮造りの材木を貢げるほど安泰になり始めた
- 5 帝は民の暮らしが楽になるまで納税を免除したうえに、自分のことは顧みなかったところ、民は感謝の気持ちから宮造りに参加した

国 語

〔注意〕 記述式で解答する場合は解答用紙Aを、マーク式で解答する場合は解答用紙Bを使用せよ。

1 次の文章は、宇野常寛著『遅いインターネット』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

¹この四半世紀で、二次元の平面（紙、スクリーン、モニター）上に置かれた「他人の物語」ではなく、三次元の空間での体験、つまり「自分の物語」を発信することに人々の関心は大きく移行しつつある。テキスト、音声、映像といった「他人の物語」を記録した **X**（本、CD）には値段がつかなくなり、フェスや握手会といった「自分の物語」としての体験が、つまり **Y** が値上がりしている。いや、こうした情報たちが、それらを材料にした体験の側に価値を発生させその商品価値を延命させていく、というのは周辺的な問題だろう。おそらく僕たちが生きているあいだは、そもそも他人の語る物語に感情移入することの快楽が相対的に支持を失い、自分が直接体験する自分が主役の物語に余暇と所得を傾ける人々が増えていくのだ。

映像の20世紀と呼ばれた前世紀は、まさにこの²魔法の装置によって社会が決定的に拡大した時代だった。

人間の目や耳を中心とする五感で得られた断片的な情報を脳で結合し、記憶で補完することで発生するのが「体験」だ。これを誰かと共有することは、本来は不可能なことだ。しかし人類はこの乖離した、三次元の空間で発生した「体験」を二次元の平面上の情報に統合するという術を編み出した。三次元の、乖離したものを、二次元に統合して共有可能にすることによって、つまり虚構を媒介することによって、文脈の共有を支援することに僕たちは成功したのだ。19世紀と20世紀の変わり目に登場した映像という装置は立体的な現実を平面的な虚構に整理することで、乖離した人間の認識を統合する。こうして生まれた画像が連続し、擬似体験を形成する。このとき人類ははじめて整理され、統合された他人の経験（カメラの視点）を共有することが可能になったのだ。

そしてこの映像が放送技術と^aケツタクすること（テレビ）で、³20世紀の国民国家は広く複雑化した社会の維持が可能になった。

しかしこの映像という制度はいま、情報環境の進化によって大きく変質しつつある。21世紀の今日において、あらゆる「映像」はインターネット上でシェアされる「動画」のバリエーションになりつつある。映画やテレビといった20世紀的な映像を人々が受け取る方法は徐々にストリーミング配信へ移行しつつあり、そしてそれ以上にYouTubeからTikTokまでソーシャルネットワークでシェアされる対象として、映像はこれらのサービス上で用いられるカジュアルなコミュニケーションツールになりつつある。インターネットは写真を「画像」に、映像を「動画」に、つまりネットワークで共有されることが前提のものにしたのだ。

20世紀の人類は広義の劇映画とその派生物（テレビ、マンガ、ポピュラーミュージック、スポーツ

中継)を通して他人の物語を消費し、内面を養い、そして他の誰かとその(擬似)体験を共有することとでかつてない規模と複雑さを備えた社会を維持してきた。前世紀に生を受けた僕たちにとって、社会とはスクリーンやモニターの中に存在するものだった。しかしおそらくこれからの人類は(少なくとも20世紀の人類ほどには)映像の中の他人の物語を必要としなくなるだろう。

20世紀という「映像の世紀」を席卷した劇映画とは基本的に「他人の物語」への感情移入装置だった。20世紀初頭の映画の普及は、いわゆる有名人のカテゴリーを一変させた。小説家をはじめとする文筆業者への注目度が相対的に低下するその一方で、俳優、コメディアン、アスリートなど映像という新しい媒体と親和性の高い表現者たちの台頭を生んだ。19世紀が(総合)小説の世紀なら、20世紀は(劇)映画の世紀だ。20世紀の知識人は19世紀の文学を共通言語にコミュニケーションを取ったように、21世紀の知識人は20世紀の映画を共通言語としてコミュニケーションを取るだろう。これは、21世紀における劇映画がメジャーシーンではデイズニー的にグローバルな大衆娯楽として完成されるその一方で、マイナーシーンにおいては知識人たちの共通言語となる教養として、細分化とハイコンテキスト化を遂げていくことを意味する(小説がかつてそうであったように)。

「他人の物語」から「自分の物語」へ。この圧倒的な変化の中で、旧世紀的な映像産業はグローバルな資本による寡占化が進んでいる。そこでは高齢化する先進国に暮らす20世紀の人類を対象に、前世紀の有名作のリブートと続編が再生産され続けるだろう。それが映像作品を最大の共通体験とする僕たち映像の世代を動員するための最適解に他ならないからだ。作品の良し悪しとは別問題としてポップカルチャーのメジャーシーン、特に映像文化については20世紀後半の思い出を温めるコミュニケーションが支配的に、それも全世界規模でなるはずだ。

気がつけば毎年年末に生放送される「紅白歌合戦」は1年の締めくくりにその年に活躍した音楽家がヒットソングをヒロウする場ではなく、戦後大衆音楽史のダイジェスト的なセットリストを組んで、老若男女がノスタルジーを共有する場に変貌し、近藤真彦や松田聖子が「トリ」を飾っている。そしてデイズニーに権利が買われることでシリーズが再開した『スター・ウォーズ』は、第1作を手堅く現代風にリメイクしながら、初期シリーズの登場人物のその後の姿を盛り込むことで、デイズニーらしいファミリー向け映画に生まれ変わった。

おそらく僕たちが生きているうちに、劇映画やアニメといった映像文化のメジャーシーンは20世紀、特に戦後のタイトルを古典としたリブートや二次創作物が占めていく可能性が高い。随分と前から、ハリウッドの興行収入ランキングでは、20世紀後半を彩った有名大作の続編とリメイクが大きな位置を占めている。この10年の映画興行収入ランキングを席卷したMCUに登場するヒーローたちがほぼ20世紀のコミックが生んだキャラクターであることは、そのことを端的に証明している。

考えてみれば、そもそも人々が映像で描かれた物語を最大の共通体験とする社会自体が戦後に決定的に拡大したもので、たった数十年の歴史しかもたないものだ。そしていまこうした世代の共通体験としての映像文化そのものが、いわば熟年期にさしかかっている。このとき「紅白」から『スター・ウォーズ』まで、社会がメジャーシーンとしての映像文化に要求するのは、ユースカルチャーとして時代の感性を代表することではなく、むしろ自身の歴史を参照しながらその観客の記憶を温め直すこ

となのだ。そして劇映画はその社会的な機能の変化を受け入れることでこれまでとは異なった、しかしより強大な影響力を社会に行使している。

おそらく20世紀的な「映像」文化がかつてのような社会的機能を取り戻すことはないだろう。僕たちは、マスメディアが社会を構成する時代に、その王者として君臨していた映像分野がもつとも果敢に時代の感性を代表し、世代の共通体験となる神話を生んできた時代に「たまたま」生きてきた。しかし、その時代はいま、ゆっくりと終わろうとしている。そして劇映画という制度は一度終わること⁶で、「動いているもの」から「止まっているもの」へ変化することで、より強大で支配的な存在に変貌しつつある。それはあたらしいものを生む力はないが、既に存在しているものをもつとも強い力で動かすことができる。この現象は（個人的には少し寂しいことだが）、ひとつの表現のジャンルが成熟し、社会の変化に応じてその役割を変貌させたに過ぎない。こうして「映像の世紀」は終わり、そして映像、特に劇映画はネットワーク上にシェアされる「動画」のジャンルとしてこれまでとは異なる社会的な機能をもつようになったのだ。こうして「帝国」は完成されたのだ。

しかしその一方で、このネットワークの21世紀には、ディズニーが象徴する旧世紀的な劇映画とはまったく異なる論理で形成され、まったく異なる構造で人間の心を動かす文化が台頭している。

今日においては人間の心を動かす装置は劇映画が代表する「他人の物語」から、自身の体験を発信する「自分の物語」へとその中心を移しつつあるのだ。そう、僕たちはこの四半世紀で誰もが（それがどれほど凡庸で、陳腐であったとしても）自分の物語を語り得ることに気づいてしまった。他人の物語に感情移入することよりも、自分の物語を語ることの快楽が強いに気づいてしまった。本が売れないと嘆く出版社の社員の敵は他の出版社の刊行物ではなく、視聴率の悪さに胃を痛めるテレビマンの敵は他局の裏番組ではない。彼らの敵は、Facebookであり、Instagramであり、そしてTwitterだ。彼らの顧客は、モニターの中のヒーローやヒロインの自分ではない他の誰かの物語に感情移入するよりも、自分が週末に出かけたセミナーで、終了後に話しかけた著名人とのセルフイーをFacebookのウォールにアップロードすることのほうに夢中だ。あるいは夕食後にベッドでだらだらと、数時間前までカフェで話し込んでいた彼氏と自宅に帰ったあともLINEでメッセージをやり取りすることのほうに充実感を覚えはじめているのだ。

活版印刷の時代から映像の世紀に至るまで、人類社会では「他人の物語」をキョウジユすることによって個人の内面が醸成され、そこから生まれた共同幻想を用いて社会を構成してきた。しかし、グローバル資本主義は共同幻想を用いずに、政治ではなく経済の力で、精神ではなく身体レベルで世界をひとつにつなげてしまった。僕たちはこれまでのようには「他人の物語」を必要としなくなっているのだ。

たとえばこの視点からは近代文学とは本質的に他人の物語でしかあり得ない小説を、様々な手法で自分の物語として読者に Z させる手法の開発を中心とした文化運動だった、とソウカツすることもできるだろう。その役割は20世紀に劇映画に引き継がれたが、今世紀において個人が自分の物語を語るものが日常的になったとき、その使命は（少なくともこのかたちでは）終わりを告げたと言える。

〈注〉

フェス	ポピュラー音楽の分野で、多数のアーティストが演奏する音楽祭
ストリーミング配信	インターネット上の音楽や映像などのメディアをダウンロードなしに再生できる配信方法
YouTube TikTok	いずれも、インターネット上の動画共有サービス
(総合) 小説	色々な世界観を持った人々が登場し、それらがからみ合って新たな世界観が生み出されるという小説のこと
メジャーシーン	広く一般的な分野や状況
マイナーシーン	せまく限られた分野や状況
ハイコンテクスト	共通の知識、価値観、嗜好 ^{し好} など、言語以外のコミュニケーション
リブート	映画のシリーズ作品で、新しいファンや興行収入向上のため内容を刷新すること
セットリスト	演奏する曲の順番を一覧にした文書
トリ	最後に登場する呼び物の出演者
『スター・ウォーズ』	アメリカで作成されたSF映画のシリーズ
M C U	マーベル・シネマティック・ユニバースの略。マーベルコミックから出版されたコミックのキャラクターにもとづいて作成された映画作品
ユースカルチャー	若者文化
Facebook Instagram Twitter	いずれもインターネットを介して人間関係を構築するウェブサービスのこと。SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) とも
セルフイー	撮影者が自分(たち)を被写体とした撮影方法。「自撮り」のこと
ウォール	自分の近況や写真を投稿したり共有したりするインターネット上の場所
共同幻想	思想家である吉本隆明が『共同幻想論』でとなえた国家の成り立ちについての考え方で、国家とは国民が同じ幻想を有することによって成り立つ共同体である、という内容

〔問1〕 二重傍線部 a～d に相当する漢字を含むものを、次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

a ケツタク

- 1 明日は晴れなのでセンタクしよう
- 2 神前でタクセンを聞く
- 3 資金はシユンタクだ
- 4 タクエツした研究成果を出す
- 5 この部分はまだカイタクされていない

b ヒロウ

- 1 キネンヒを建てる
- 2 人からのヒハンはつらい
- 3 ヒミツの会議を開く
- 4 ついつい友達とヒカクしてしまう
- 5 国宝級の文書をヒケンする

c キョウジュ

- 1 彼のキョウリヨウな態度は困る
- 2 ジツキョウ中継でお伝えしました
- 3 キョウラク的な生活を止める
- 4 この周辺はブンキョウ地区だ
- 5 キョウジユンな態度を見せる

d ソウカツ

- 1 カツゼツがあまりよくない
- 2 美術館の再開をカツボウする
- 3 町内会のカツドウに参加する
- 4 学校でイソカツ申請を行う
- 5 それはキョウカツザイに相当する

〔問2〕 次の二重傍線部ア～エの漢字の読みを平仮名で記せ。(解答用紙 A)

ア 手堅(く)

イ 彩(つた)

ウ 君臨

エ 果敢

〔問3〕 傍線部1「この四半世紀」とはどのような意味か。次の中から最も適当なものを選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 過去五十年間
- 2 これから五十年間
- 3 これから二十五年間
- 4 過去四十年間
- 5 過去二十五年間

〔問4〕 空白部X・Yを埋めるのに最も適当な組み合わせを次の中から選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙B)

- 1 X モノ Y コト
- 2 X コト Y トキ
- 3 X コト Y モノ
- 4 X モノ Y トキ
- 5 X トキ Y モノ
- 6 X トキ Y コト

〔問5〕 傍線部2「魔法の装置」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 二次元の平面である紙に印刷された本に記されている他人の体験に感情移入することは難しいが、記録されスクリーンやモニターに映し出された他人の体験は価値あるものであり、自分の体験として共有できるということ
- 2 たとえ自分がよく知っている人であっても、その人がいったんスクリーンやモニターに映し出されることがあると、まるで今まで知らなかった別の次元にいる人のように感じられ、直接体験以上の価値をそこに見出すこと
- 3 平面の世界である二次元においては、紙に印刷された小説本やスクリーンなどに映し出された映像を観ることのみが体験としての価値を持つが、三次元の空間での体験はあくまで他人の体験であり、それには価値を見出せないということ
- 4 たとえ自分が三次元の空間で実際に体験したことでなくても、二次元の世界であるスクリーンやモニターに映し出された映像を観ることによって、それがまるで自分の体験であるかのように感情移入できるということ
- 5 スクリーンやモニターに映し出された他人の体験である記録映像は、あくまで二次元という平面上の出来事にすぎないので、フェスや握手会といった生身の他人との交流体験のほうがより感情移入しやすいということ

〔問6〕 傍線部3「20世紀の国民国家は広く複雑化した社会の維持が可能になった」とあるが、傍線部3より後の本文中で、それを説明している一文の終わりの七字をそのままのかたちで抜き出して記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問7〕 傍線部4「グローバルな資本による寡占化」を言い換えた語を、傍線部4より後の本文中から抜き出し、そのままのかたちで記せ。ただし、五字以内とし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問8〕 傍線部5「むしろ自身の歴史を参照しながらその観客の記憶を温め直すことなのだ」ということ具体例として本文中で示されたもののうち、当てはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 知識人たちが特定の劇映画についての知識を共有し、単なる娯楽として消費すること
- 2 前世紀の著名な劇映画の続編が次々に制作され、一定数の観客を動員すること
- 3 「紅白歌合戦」の呼び物が、老若男女に懐かしい感情を喚起する音楽家であること
- 4 『スター・ウォーズ』のリメイクが、世代を問わず家族で楽しめる作品となったこと
- 5 前世紀のコミックキャラクターが登場する劇映画が、変わらず高い興行収入を得ていること

〔問9〕 傍線部6「動いているもの」から「止まっているもの」へ変化することの説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 劇映画を代表とする映像文化が社会的な役割の変化を受け入れることなく、人々から次第に忘れ去られてしまったこと
- 2 劇映画が上映されるたびに人々がわざわざ映画館へ足を運ぶのではなく、ネットワークを通じて自宅ですぐに新作映画を観ることができること
- 3 劇映画を代表とする映像文化がその時代にそった新しい作品を生み出してゆくのではなく、人気を博した旧作のリメイクや二次創作ばかりになること
- 4 劇映画が制作される文化的、社会的な制度が終わりを迎え、新たな映像作品を生み出してゆく経済的基盤がなくなってしまうこと
- 5 劇映画が映像文化という分野から離脱してしまい、それぞれの場面が「画像」という静止した作品としてネットワーク上で共有されること

〔問10〕 傍線部7「(それがどれほど凡庸で、陳腐であったとしても)」とあるが、筆者はなぜこのよ
うなコメントを付け加えたのか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、その番号
をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 あらゆる人間が発信することのできる「自分の物語」とは、平凡な日常の中でたまたまめ
ぐりあった格別に珍しい体験であるから
- 2 どんな人間でも発信することができる「自分の物語」とは、だれもが日常で遭遇するあり
きたりな出来事であって、特別に珍しい体験ではないから
- 3 有名な映画俳優や作家といった特別な能力や業績を有する人間が発信する「自分の物語」
は、だれもが体験したような気分を味わえるものだから
- 4 有名な人間が発信する「他人の物語」を素直に受け取って、まるで「自分の物語」である
かのように思い込む人間が多いから
- 5 平凡で平穏な日常生活を送る人間が発信する「自分の物語」は、たやすく「他人の物語」
に読み替えられて世の中に広まるから

〔問11〕 空白部Zを埋めるのに最も適当な語を次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙
B)

- | | | |
|------|------|------|
| 1 肯定 | 2 記憶 | 3 証明 |
| 4 錯覚 | 5 購読 | |

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「皇后宮、上東門院、いづれか今少しめでたくおはしましける」と言へば、「皇后宮、御みめもうつくしうおはしましけるとこそ。院も、いと御志深くおはしましける。失せさせ給ふとて、

知る人もなき別れ路にいまはとて心細くも思ひ立つかな

夜もすがら契りしことを忘れずは恋ひむ涙の色ぞゆかしき

など詠ませ給ふらむこそ、あはれに侍れ。後に御覧じけむ帝の御心地、まことにいかばかりかはあはれにおぼしめされけむ。

さて、御わざの夜、雪の降りければ、

野辺までに心ひとつは通へども我がみゆきとは知らずやあるらむ

と詠ませ給へりけむも、いとこそめでたけれ。おはしまさぬ後まで、さばかりの御身に、御目も合はずおぼしめし明かしけむほどなども、返す返すもめでたし。

また、中関白殿隠れさせ給ひ、また、内大臣流されなどして、御世の中衰へさせ給ひて後、かすかに心細くておはしましけるに、頭中将それがし参りて、簾のそば、風に吹き上げたるより見給ひければ、いたく若き女房の、清げなる、七、八人ばかり、色々の単襲、裳、唐衣などもあざやかに候ひけるもと思はずに、今は何ばかりをかききこともあらじ、と思ひあなづりけるも、あさましくおぼえけるに、庭草は青く茂りわたりて侍りければ、『などかくは。これをこそ払はせておはしまさめ』と聞こえ給ひても、宰相の君となむ聞こえける人、『露置かせて御覧ぜむとて』といらへけむこそは、なほ古りがたくいみじくおぼえさせ給へ。

上東門院の御事は、よし悪しなど聞こゆべきにもあらず。何事もめでたきためしにはまづ引かれさせ給ふ時なれば、とかく申すに及ばず。

何事も御幸ひ極めさせ給ふあまりに、御命さへこちたくて、あまたの帝におくれさせ給ふこそ、口惜しく侍れ。そのたびに、いとあはれなる御歌ども詠ませ給ひたるは、やさしくこそ侍れ。

一条院隠れさせ給ひて、

逢ふことも今はなき寝の夢ならでいつかは君をまたは見るべき

など詠ませ給へるも、いとめでたくこそ侍れ。

また、頭基中納言の御返り事に、『世は二度はそむかざらまし』など侍るも、いとあはれなり。

何事よりも、優なる人多く候ひけむこそ、いとど心にくくめでたくおぼえ侍れ」

〈注〉 皇后宮	一条天皇皇后定子
上東門院	一条天皇中宮彰子
院	一条天皇
帝	一条天皇
わざ	葬送
中関白殿	藤原道隆。定子之父
内大臣	藤原伊周。定子之兄
単襲	重ね着する単衣
裳	女性の正装時、腰にあてて長く後ろに引くひだのある飾り
唐衣	女性の正装時の上着
宰相の君	定子づきの女房
顕基中納言	源顕基
世は二度はそむかざらまし	顕基の歌に対する上東門院の返歌「時の間も恋しきことの慰まば世は二度もそむかざらまし」(『後拾遺和歌集』)。上東門院が一度出家していることを踏まえる

〔問1〕 二重傍線部 a ～ d の動作の主体はそれぞれ誰か。その組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| 1 | a 帝 | b 皇后宮 | c 帝 | d 帝 |
| 2 | a 帝 | b 帝 | c 帝 | d 皇后宮 |
| 3 | a 帝 | b 帝 | c 皇后宮 | d 皇后宮 |
| 4 | a 皇后宮 | b 皇后宮 | c 帝 | d 帝 |
| 5 | a 皇后宮 | b 帝 | c 皇后宮 | d 帝 |
| 6 | a 皇后宮 | b 皇后宮 | c 帝 | d 皇后宮 |

〔問2〕 傍線部 1 「返す返すもめでたし」とあるが、筆者はどのようなことを「めでたし」と感じたのか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 皇后宮がその容貌の美しさだけによって、帝に深く愛されたこと
- 2 皇后宮が亡くなり、帝が悲しみにくれた夜に雪が降ったこと
- 3 帝に深く愛されるほど、皇后宮がすばらしい人物であったこと
- 4 皇后宮を深く愛した帝が、亡くなった皇后宮を思い和歌を詠んだこと
- 5 皇后宮に送った帝の返歌が、優れていて心を打つこと

〔問3〕 波線部ア～エの敬語について、敬意の対象はそれぞれ誰か。その組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | ア | 皇后宮 | イ | 皇后宮 | ウ | 頭中将 | エ | 頭中将 |
| 2 | ア | 皇后宮 | イ | 頭中将 | ウ | 皇后宮 | エ | 頭中将 |
| 3 | ア | 頭中将 | イ | 内大臣 | ウ | 宰相の君 | エ | 宰相の君 |
| 4 | ア | 頭中将 | イ | 皇后宮 | ウ | 皇后宮 | エ | 皇后宮 |
| 5 | ア | 内大臣 | イ | 頭中将 | ウ | 頭中将 | エ | 宰相の君 |
| 6 | ア | 内大臣 | イ | 内大臣 | ウ | 宰相の君 | エ | 皇后宮 |

〔問4〕 傍線部2「あなづりける」を七字以内で現代語に改めよ。(解答用紙A)

〔問5〕 傍線部3「これをこそ払はせておはしませぬ」の説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 中関白家を討伐しておきましょう
- 2 若い女房を追い払わせておきましょう
- 3 庭のごみを掃き清めさせてはいかがでしょう
- 4 庭の草を刈り取らせておかれたらよいでしょう
- 5 草の露を払いのけておいた方がよいでしょう

〔問6〕 傍線部4「いらへ」とあるが、この動詞の文法的説明を、次の空白部W・X・Y・Zを埋める形で答えよ。(解答用紙A)

(例)

カ

 行

四段

 活用の動詞「

書く

 」の

終止

 形

W

 行

X

 活用の動詞「

Y

 」の

Z

 形

〔問7〕 傍線部5の和歌について次の①・②の間に答えよ。

① 和歌に用いられている表現技法として適当なものを一つ次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 歌枕 2 掛詞 3 枕詞 4 序詞 5 折句

② 和歌に込められた心情として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙B)

- 1 一条天皇に先立たれた今となつては、泣きながら寝て見る夢以外では、一条天皇に二度と会うことができないことを嘆き悲しむ気持ち
- 2 一条天皇が流罪になってしまった今では夢でしか会うことがかなわず、簡単には一条天皇に会うことができないことをうらめしく思う気持ち
- 3 一条天皇が争いことを避け山里に住んでいる今では、寝ても覚めても、平和な時代が訪れ一条天皇に会えることを願う気持ち
- 4 一条天皇が自分の前から姿を消した今、楽しかった時間は夢となってしまったが、自分を裏切った一条天皇にせめて夢の中だけでも会いたいと願う気持ち
- 5 一条天皇が世間を離れてしまった今、昔の夢のような時代は戻ってこないのに、一条天皇への思いを慰めるために仏門に入ることを決意する気持ち

〔問8〕 本文の内容と合致しないものを次の中から二つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 皇后宮は容貌も美しく帝からも愛されるなど、幸福な人生を送り長生きした
- 2 皇后宮は父の中関白殿が亡くなった後も、昔と変わらず趣深い暮らしをしていた
- 3 皇后宮には常日頃から正装した、若くて美しい女房がお仕えしていた
- 4 上東門院は帝に先立たれる度に、慈愛に満ちた心を打たれる和歌を詠んだ
- 5 上東門院はすばらしい例として引き合いに出されるほどの人物であった
- 6 上東門院には優れた女房が多くお仕えしていたが、庭草の手入れはしていなかった

国 語

〔注意〕 記述式で解答する場合は解答用紙 A を、マーク式で解答する場合は解答用紙 B を使用せよ。

- 1 次の文章は、河野哲也著『人は語り続けるとき、考えていない』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

思考とは、推論と同一視できない、もつと複雑な心の働きである。ギルバート・ワイルという哲学者は、私たちの多くが思考と呼ばれる活動に関して、カテゴリーの錯誤と呼ばれる誤りを犯していると指摘している。すなわち、行為の中には、複雑さの階層があり、たとえば、歩く、食べる、座る、つぶやく、などの行為も、そこにはさまざまな身体部位の運動や動作が含まれているが、それでも比較的単純な行為である。それに対して、交渉する、実験する、統率する、検査する、などの行為には、さまざまな下位の行為が含まれている。「交渉する」という行為には、書類を作成する、情報を取る、連絡をとる、仲間と打ち合わせをする、相手と面談をする、作戦を練り直す、などの行為が含まれる。それらの下位の行為のなかにも、さらに下位の行為が含まれている。たとえば、「書類を作成する」にしても、「用紙を手に入れる」、「書き込む」、「修正する」、「提出する」などの行為が含まれる。

ワイルが指摘していることは、「考える」と私たちが呼んでいる行為は、「歩く」や「座る」のような比較的単純で基礎的な行為ではなく、むしろ「交渉する」のような一連の複雑な行為の集合を指しているということである。では、「考える」の下位集合となっている諸行為とはなんだろうか。そして、それらの下位集合である諸行為は、どのような形で「考える」²としてまとめられているのだろうか。

手がかりとして、たとえば、日本語での「思う」と「考える」という言葉の使い方に注意してみよう。「思う」は、漠然とした想起や思い出すことに近い行為であるのに対して、「考える」はもつと目的志向な行為である。たとえば、「故郷を思う」と「故郷を考える」とを比較してみるとよい。前者では、故郷のことを思い出し、回想に耽^かつたり、想像したりするような行為であろう。しかし後者であれば、再開発であれ環境保護であれ、故郷の地域に何かの問題が生じていて、それに対して何かの方策を考案するとか、あるいは、自分の故郷の歴史や文化について調べてみたり、レクチャーを受けたりといったことが想定される。「考える」の方が、より活動的で、目的を持った行為であるとと言えるだろう。

考えるとは、何かの問題を解決しようとする行為である。さて、ここで私たちは、子どもの哲学の推進者がしばしば批判する、教師が誘導する擬似的な対話³と比較しながら、思考とは何かについて考えてみよう。

学校の授業では、すでに教師はある正解を持っていて、生徒をそちらに導くような形で質問と応答

のやり取りを行うことがある。たとえば、道徳の授業で教師が「嘘をつくのはよくない」という結論に到達したいがために生徒に投げかけるような質問は誘導的である。そうした二七の対話では、まず、嘘の定義については明示されることなく、すでに定義は共有されているという前提で話が進むであろう。世辞やコトヨウ、冗談、楽しみのためのサプライズ（本人に隠して誕生日会を準備など）が嘘かどうかは検討されないのはもちろん、事実の誤認や勘違い、あるいは自己欺瞞を嘘と呼ぶべきかどうかも話題に上らせない。嘘をつくことで害のあるケースが主に取り上げられ、教師が求める結論から見て派生的と思われる質疑は省かれ、あるいは無視されて、あらかじめの結論に到達するだろう。このような誘導的な質疑応答は、真の議論ではなく、そこでは生徒はほとんど考えることがない。それ以前に、生徒はやる気を大幅に減じるであろう。

A、教師があらかじめの結論に導くことなく、いやそもそも本当に「嘘をつくのはよくない」のかどうか分らず、それを生徒と一緒に検討したくて、質疑応答をする場合はどうだろうか。対話が始まると、教師が「ところで、嘘って何かな」と定義するように促しさえすれば、生徒たちは右であげた嘘の定義や範囲をすぐに問題とするだろう。少し時間が経つと他の生徒たちが手をあげて、嘘をつく動機や意図を問題とするようになり、「嘘をついたときに問題となるのは動機とか意図だけかな」と教師が呟けば、たちまち嘘をついたことの帰結についても検討が始まるだろう。

B 動機で判断するか、帰結で判断するかといった倫理学ではおなじみの論争も生じるであろう。

C 時間が経てば、それまで黙って聴いていた生徒が「そもそも嘘をつくことがどれほど重要な倫理的問題であるのか、もつと優先すべき道徳的価値はないのか」などといった、これまでの議論の根底を問うような発言をするだろう。これらはすべて、小学校高学年で実際に出された発言であり問いである。

教師は「嘘をつくのはよくないか」という問いに含まれるテーマの多さに圧倒されながらも、生徒の議論を何とか整理して、「全部は無理だから、今回はこの点だけを考えよう」などと提案して、生徒の同意をとり、ひとつの問いについて集中的に議論するように促す。いくつかの対立軸が生まれ、一通りの発言が終わると X の時間が到来する。いくつかの的外れな意見や質問が出て、発言者が自ら言葉を引き取ったり、「それは今の話とは結びつかない」などという評価が出たりして、質問は取り下げられる。再び沈黙が続く。別の発言者が、「関係ないかもしれないけど」という自信のない枕に続いて自分の意見を言い、他の生徒が「いや、どこかで関係しているし、結構、重要だと思う」といった発言をすると、教師は「私も何となくそう思うけど、どの辺がいいアイデアになるのかな。誰か分かりますか」などと再び小声で語りかける。生徒たちはいくつかの発言をもう一度思い出し、議論の流れを整理し、発言を分析しようとしてうつむいている。諦めがちな生徒もいて、足をブラブラさせている。教師は誰かが発言しないか、チラチラと生徒の顔色を見回している。もちろん、自分が生徒よりもよい意見を持っているわけではない。 D、教室の時計が授業の終了時刻を知らせる。

実際の対話はこのように進行する。この実際の過程と比べると、プラトンの描くソクラテスの問答はかなり誘導的であり、またスムーズに進行しすぎる。実践家なら、それがフィクションにすぎない

と実感するであろう。

さて、ここで記述したのは、あらかじめ結論なく対話を進める教師と、問いに取り組んでなんとか解答を与えようとしている生徒たちのやり取りである。私が指摘したいことは、まさしく思考において行われているのは、後者の対話と同じことだということである。思考とは、規則通りに動くコンピュータにできることではない。機械は生きておらず、生きていない存在には問題がなく、問題がないところには思考はない。コンピュータは人間のための道具にすぎない。ライルは、以下のように思考とは何かの本質を突く主張をしている。

既存のよく知っている通路に沿って従順な仲間たちを導いていく案内者と違って、ピタゴラスのような先駆的な通路発見者にとっては、たどるべき通路は存在しない。…どんなふうにして彼は通路を開拓できるのか。もちろん、通路をたどることによつてではない。なぜなら、たどるべき通路は存在しないから。また座して手をもみしだくことによつてでもない。そうではなく、通路は確かに存在しないが、幸運、勤勉、思慮によりやがて通路が存在することになるかもしれない地面を歩き回ることによつてである。

対話では、いまだに答えがどこにあるか分からない問いに相對して、教師とクラスメートは互いに、かならずしもうまくいくかどうかは分からない定石や手続きを試してみたり、別の考えを思い浮かべるようにシサしたり、別の立場ではどうなるかと問うてみたり、絵や図や式などを黒板に書いてまとめてみたり、身ぶりをしてみたりして、互いに刺激を与えあつて、なんとかよい解答を見つけ出そうとする。思考とは、これらのことをあなたがあなた自身に行っている状態のことなのである。

自分の思考を進展させるものは、つねに観念や直感やドウサツなどの心理的なものである必要はない。さまざまな場所でアイデアを促すとされている本や資料や図や絵画、あるいは何かの体験など日常的な事物や物事で構わない。とはいえ、それがうまく思考を促すこともあれば、うまくいかないこともある。思考とは、問題解決を何とか手繰り寄せようとする実験の過程に他ならない。それは、自分と同じく解答を知らない教師や同輩と探求の旅に出ることである。これまでの旅に役立つさまざまな器具や道具で、道を切り開こうとするが、うまく行ったり行かなかつたり、思い通りに行ったり偶然に成功したりといったことを繰り返す旅である。

対話が思考に似ているのは、それが問いに始まり、どこにたどり着くかおぼつかない旅だからである。科学哲学者のポール・ファイヤーアーベントは、科学研究は一定の方法論的規則によつて合理的に導かれなければならないという従来の説を批判した。彼によれば、科学的発見には従わねばならない方法論はなく、科学を推進し新しい理論を創造する研究には非合理的な活動さえ含まれており、本質的に「どのような方法を用いても構わない」という意味でアナキズム的な営為である。もちろん、そうした創造活動の成果は、今後は批判的に検証されて、はじめて科学理論として受け入れられて定着する。これと同じことが思考にはあてはまる。ここに、思考力を育成するとされる教育へのヒントが隠されている。

〈注〉 子どもの哲学 子ども同士が哲学的なテーマについて話し合う新しい教育

プラトン 古代ギリシアの哲学者。ソクラテスの弟子

ソクラテス 古代ギリシアの哲学者、教育者

ピタゴラス 古代ギリシアの哲学者、数学者、宗教家

〔問1〕 二重傍線部 a～d に相当する漢字を含むものを、次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

a 二七

- 1 ギシキのために服を買う
- 2 青春をギセイにして芸に励む
- 3 ギゼンかどうかの判断は難しい
- 4 新しいギキョクを書く
- 5 必要な物をテキギ使用する

b コチヨウ

- 1 血液のギョウコが始まる
- 2 クラブのコモンに葉書を送る
- 3 竹林のモウコを捕獲する
- 4 心臓のコドウを聞く
- 5 コダイな広告をする

c シサ

- 1 キョウサの罪を犯す
- 2 それつきり何のオトサタもない
- 3 日本はかつてサコクしていた
- 4 会長をホサして働きたい
- 5 どちらの製品も性能にはサイがない

d ドウサツ

- 1 寺のホンドウを見学する
- 2 光の強さで目のドウコウが変化する
- 3 船のドウタイに傷がある
- 4 歴史上の人物のドウゾウを建てる
- 5 山のドウケツを探す

〔問2〕 二重傍線部ア～エの漢字の読みを平仮名で記せ。(解答用紙A)

ア 漠然 イ 冗談 ウ 定石 エ 手繰(り)

〔問3〕 傍線部1「カテゴリ」の錯誤と呼ばれる誤りを犯している」とあるが、その説明として最も
適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 行為の中には階層があり、比較的単純な行為と、下位の行為のさらにその下位にさまざまな行為を含むといった複雑な行為があるが、私たちの多くは思考という活動について、その比較的単純な行為に該当することを理解していない
- 2 行為の中には階層があり、比較的単純な行為と、下位の行為のさらにその下位にさまざまな行為を含むといった複雑な行為があるが、私たちの多くは思考という活動を、その複雑な行為であると思違いしている
- 3 行為の中には階層があり、比較的単純な行為と、下位の行為のさらにその下位にさまざまな行為を含むといった複雑な行為があるが、私たちの多くは思考という活動について、その複雑な行為の下位の行為に当たると思違いしている
- 4 行為の中には階層があり、比較的単純な行為と、下位の行為のさらにその下位にさまざまな行為を含むといった複雑な行為があるが、私たちの多くは思考という活動が、その複雑な行為の下位の行為に該当することを理解していない
- 5 行為の中には階層があり、比較的単純な行為と、下位の行為のさらにその下位にさまざまな行為を含むといった複雑な行為があるが、私たちの多くは思考という活動が、その複雑な行為に該当することを理解していない

〔問4〕 傍線部2「考える」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 「思う」が例えば故郷について回想に耽るような行為であると同様に、「考える」も、故郷の何らかの問題を思い浮かべたり、文化や歴史について想像したりする頭脳の活動的行為である
- 2 「思う」は想像や想起をするだけの単純で劣った行為であるのに対し、「考える」は、問題について考えたり歴史について調べたりする行為を含む、問題解決を目的とする高度な行為である
- 3 「思う」が単に想像や想起をする行為であるのと異なり、「考える」は、何らかの問題について自らレクチャーしたり問題を解決する方策を周囲に訴えたりする活動を目的とした行為である
- 4 「思う」がただ想像や想起をする行為であるのと異なり、「考える」には、何らかの問題に対して方策を練ったり調べたりする行為が含まれており、問題解決を試みようとする行為である
- 5 「思う」が故郷のことを想起したり過去を回想したりする人間特有の複雑な行為であるのと同様に、「考える」も、環境問題や地域の問題を思索したり何かを調べたりする、複雑な行為である

〔問5〕 傍線部3「擬似的な対話」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 真の対話は、教師が到達したい結論に生徒を導くために質疑応答するものであり、教師にも解答が分からない問題を生徒と検討し解答に到達できないような対話は、本当の対話とはいえない
- 2 真の対話は、教師もよく分からない問題を生徒がやる気を出して解答を出そうとするものであり、教師が熱意を持って誘導しても生徒がやる気を減じるような対話は、本当の対話とはいえない
- 3 真の対話は、教師にも結論が出ない問題を生徒と検討するうちに解答が導き出されるものであり、教師が生徒といくら長時間議論しても解答の出ないような対話は、本当の対話とはいえない
- 4 真の対話は、教師が道徳的価値のある結論に生徒を導くことを目的とするものであり、教師が独りよがりな答えを想定し生徒を誘導して議論させるような対話は、本当の対話とはいえない
- 5 真の対話は、教師も結論の分からない問題を生徒と共に検討し解答を出そうとするものであり、教師が正解を想定し生徒を誘導して質疑応答するような対話は、本当の対話とはいえない

〔問6〕 空白部A～Dを埋めるのに最も適当な組合わせを次の中から選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙B)

- | | | | | |
|---|--------|-------|-------|--------|
| 1 | A では | B しかし | C だが | D あるいは |
| 2 | A では | B そして | C さらに | D すると |
| 3 | A では | B そして | C だが | D あるいは |
| 4 | A ところで | B しかし | C さらに | D すると |
| 5 | A ところで | B しかし | C だが | D すると |
| 6 | A ところで | B そして | C さらに | D あるいは |

〔問7〕 空白部Aには四字熟語が入る。次の中より漢字を選び、最も適当な四字熟語を完成させて記せ。ただし、同じ漢字を複数回用いてもよいものとする。(解答用紙A)

一 考 日 発 選 論 秋 取 思 風 沈 談 捨 黙 千

〔問8〕 傍線部4「フィクションにすぎない」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 記録だけではない
- 2 虚構ばかりではない
- 3 理想でしかない
- 4 願望ではすまない
- 5 行動でしかない

〔問9〕 傍線部5「やがて通路が存在することになるかもしれない地面を巻き回ること」とあるが、同じ内容を端的に言い換えている四字の部分、傍線部5より後の本文中から抜き出し、そのままの形で記せ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問10〕 傍線部6「ポール・ファイヤーセント」とあるが、彼が科学研究をどのような行為とらえているか説明した最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 科学研究は方法論的規則に従い合理的に行わねばならないという従来の説を批判し、研究で新しい創造を生むためには非合理的な行為も含めて、どんな方法を使ってもいいという、現実を肯定し妥協する行為である
- 2 科学研究は方法論的規則に従って合理的方法で行わねばならないとされてきたが、研究を進めるためには法を犯す行為も含めて、何をしても許されるという、他の何よりも営利を優先する行為である
- 3 科学研究は規則に従った方法で合理的に導かれるべきだという従来説を否定し、研究を進めるためには何でも許容され、常識的でない生活をしてもいいという、自我を追求する無秩序な行為である
- 4 科学研究はこれまで方法論的規則に従い合理的に行われるべきだとされてきたが、研究を進めるためには合理的でない活動も含めあらゆる方法を用いていいという、規則にとらわれずに自由を貫く行為である
- 5 科学研究は従来規則に従って合理的に行わねばならないとされてきたが、研究で新しい創造を生むためには、現在の規則を破り新たな規則を求めるのがいいという、制度の改変を前提とする行為である

〔問11〕 本文の内容に合致するものを次の中から二つを選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 交渉するという行為には、下位の行為として書類を作成するという行為も含まれ、その書類を作成するという行為のさらに下位には、書き込む、修正するなどの行為も含まれる
- 2 小学校高学年で実際に行われた対話で、生徒は「嘘をつくことがどれほど重要な倫理的問題であるのか、もつと優先すべき道徳的価値はないのか」というしてはならない発言をした
- 3 コンピュータは生き物ではなく、生きていないものには感情がなく、感情がなければ思考もないといえるので、人間のための道具にすぎない
- 4 思考を進めるためには、観念や直感などの心理的なものに頼ってはならず、本や資料や図や絵画を参考にしたり、何かを体験することによってうまくいく
- 5 思考力を育成するとされる教育へのヒントは、科学哲学者ポール・ファイヤーセントが述べた意見のなかに隠されている

次の文章は『狭衣物話』の一節であり、内裏において主人公の狭衣（中将の君・中将）が笛の独奏を帝から強要されている場面から始まる。これを読んで、後の問に答えよ。

「いかに。仕うまつるまじきか」とたびたび御けしきまめやかなれば、かくと知らましかば、参らざらまし、とわびしけれども、逃るまじき夜なれば、うひうひしげに取りなして、ことに人知らず耳慣れぬ調子一つばかりを、吹きたてて止みぬるを、上を始め奉りて、¹音に聞きつれど、いとばかりの音とは思しめさざりつるに、今まで聞かせ給はぬことの恨めしさをさへ仰せられて、めでたういみじ、と思しめされたるさま、こちたし。「またはさらにおぼえはべらず。これなむ、大臣、おのおのまねばれしを聞き留めてはべり X ど、はかばかしく教へらるることも候はざりしかば、いかにひがこと多くはべらむ」とて、「²虚言はいとうたてあり。大臣の笛の音にも似ず、世の常ならぬ音は誰伝へけむ」とあさませ給ふ。³過ぎぬる方、御耳慣れざりつらむ、いと恨めしきを、「⁴今宵はなほ恨み解くばかり」とあながちなる御けしきのかたじけなさもいとわびし。皇太后宮の姫宮など、みな上の局におはします。心にくき御辺りに何事も耳慣らされ奉らじ、と思ふ方さへいとどむつかしきに、心遣ひもいとどせられ給ひて、まめやかに苦し。

月もとく入りて、御前の灯笼の火ども昼のやうなるに、容貌はいとど光るやうにて、柱に寄り居て、わびつつ吹き出で給へる笛の音、雲の上まで澄みのぼるを、内、東宮を始め奉りて、候ふ人々、すべて九重の内の人、聞き驚き、涙落とさぬはなし。五月雨の空、ものむつかしげなるに、見入れ聞こゆる物やあらむ、とまでゆゆしうあはれにて、誰も御覧ず。大臣見ば、ましてめづらかにいまましく思はむ、と我が御心地にも劣らせ給はず、御袖もしはたるばかりになり給ひぬ。

宵過ぐるままに、笛の音いとど澄みのぼりて、雲のはたてまでもあやう、そぞろ寒く、もの悲しきに、稲妻のたびたびして、雲のただずまひ例ならぬを、神の鳴るべきにやと見ゆるを、星の光ども、月に異ならず輝きわたりつつ、御笛の同じ声に、さまざまの物の音ども空に聞こえて、^a楽の音いとおもしろし。帝、東宮を始め奉りて、いかなることぞ、とあさましう思しめし、騒がせ給ふに、中将の君、もの心細くなりて、いたう惜しみ給ふ笛の音をやや残すことなく、吹き澄まして、

稲妻の光に行かむ天の原はるかに渡せ雲のかけ橋

と、音のかぎり吹き給へるは、げに、月の都の人もいかでか聞き驚かざらむ。

楽の声、いとど近くなりて、紫の雲たなびくと見るに、天稚御子、角髪結ひて、言ひ知らずをかしげに香ばしき童にて、ふと降り居給ふと見るに、^b糸遊のやうなる薄き衣を中将の君にうち掛け給ふと見るに、我はこの世のこともおぼえず、⁵めでたき御ありさまもいみじうなつかしければ、この笛を吹く吹く帝の御前にさし寄りて、参らせ給ふ。

九重の雲の上まで昇りなば天つ空をや形見とは見む

と申すままに、いみじくあはれと思ひたるけしきながら、この天稚御子に引き立てられて立ちなむとするを、帝、東宮も、何しに、かかることせさせつらむ、と悔しうて、笛をば取らで、手をとらへさせ給ひて、いみじう泣かせ給へば、この御子もいと心苦しう思しわづらひたるけしきにて、^hうち泣きつつ、何事もこの世には余りたるに、笛の音さへ忍びがたさに迎へに降りたるを、かく十善の君の泣

く泣く惜しみ悲しみ給へば、えひたすらに今宵率て昇らずなりぬるよし、おもしろくめでたう文に作り給ひて、声は聞き知らずおもしろうて誦し給へるに、中将うち泣きて、心より外に口惜しう、かかる絆どもにひかへられ奉りて、今宵、御共に参らずなりぬるよしを、えも言はず空をうち眺めて誦し給へる御声、けしき、世の人の言ぐさに、「この世の人にはおはせず、天人の天降りたる」とのみ言ひ聞こえたる、今宵ぞまことなりけりと、あさましう御覧じける。

天稚御子、うち泣きて雲の輿にて昇らせ給ひぬる名残、すべて現のこととおぼえず、空のけしき、引きかへつるやうなれど、御子の御薫りばかりはなほ留まりたる心地しけり。

(『狭衣物語』による)

〈注〉大臣 狭衣の父

皇太后宮 本来は先帝の后をいうが、ここでは今上帝の后

上の局 中宮や女御などが常の局のほか、清涼殿の北側に賜る部屋

雲のはたて 雲の果て

天稚御子 音楽に關係の深い天の童子

角髪 元服前の少年の髪の結い方

糸遊 天の羽衣

十善の君 天皇

〔問1〕 傍線部1「音に聞きつれど」を十字以内で現代語に改めよ。ただし、句読点等も字数に含むものとする。(解答用紙A)

〔問2〕 空白部Aには過去の助動詞が入る。最も適当な過去の助動詞を考え、さらに、空白部を埋めるのに適当な活用形にして記せ。(解答用紙A)

〔問3〕 傍線部2「あさませ給ふ」とあるが、この部分の文法的説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 シク活用の形容詞「あさまし」の連用形 + 尊敬の補助動詞「給ふ」の終止形
- 2 シク活用の形容詞「あさまし」の已然形 + 尊敬の補助動詞「給ふ」の終止形
- 3 サ行四段活用の動詞「あす」の未然形 + 推量の助動詞「まし」の未然形 + サ行四段活用の動詞「給ふ」の終止形
- 4 サ行四段活用の動詞「あす」の未然形 + 推量の助動詞「まし」の已然形 + サ行四段活用の動詞「給ふ」の連体形
- 5 マ行四段活用の動詞「あさむ」の未然形 + 尊敬の助動詞「す」の未然形 + サ行四段活用の動詞「給ふ」の連体形
- 6 マ行四段活用の動詞「あさむ」の未然形 + 尊敬の助動詞「す」の連用形 + 尊敬の補助動詞「給ふ」の終止形

〔問4〕 傍線部3「恨み」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 笛を吹くようにとの帝からの度重なる強要に耐えがたい苦痛を感じている狭衣が帝に対して抱いている嫌悪
- 2 笛の一子相伝の名曲を父である大臣から正しく教えてもらえなかった狭衣が父に対して抱いている不平不満
- 3 笛の名手であった大臣から秘伝の名曲を完全に習得することができなかった帝が大臣に対して抱いている怒り
- 4 笛の名手であった大臣が息子の狭衣だけに伝授し自分には教えてくれなかったことに対して帝が抱いている妬み
- 5 笛を巧みに吹く狭衣の演奏をこれまできちんと聴くことがかなわずにいたことに対して帝が抱いている無念

〔問5〕 傍線部4「あながちなる御けしきのかたじけなさもいとわびし」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 笛を吹かせようと強要する帝に対してかたくなに拒む狭衣の様子が目なさは、父である大臣としてもわびしいものである
- 2 大臣の笛の力量に敬意を払って教えを受けたいと熱心に願う帝のご様子は、もったいないものであり尊いものである
- 3 皇太后宮の姫宮たちが狭衣のことを熱心に思うご様子を感じ取った狭衣は、恥ずかしさのあまりなすすべがない
- 4 狭衣に笛をむりやり演奏させようとなさる帝のご様子の恐れ多さも、狭衣にとってはまったくつらいことである
- 5 狭衣の天性の笛の演奏能力の高さをひたむきに愛する帝のご様子は、周りで見ていても度がすぎており不満が残る

〔問6〕 二重傍線部 a ～ k の動作の主体は、誰の動作なのかによつて、三つに分けることができる。

その分け方として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 [a b c] ・ [d f g k] ・ [e h i j]
- 2 [a b c e f j] ・ [g] ・ [d h i k]
- 3 [a b c g] ・ [d h i j] ・ [e f k]
- 4 [a b c k] ・ [d e h j] ・ [f g i]
- 5 [a b d] ・ [c e i] ・ [f g h j k]
- 6 [a b d k] ・ [c e h j] ・ [f g i]
- 7 [a b d k] ・ [h j] ・ [c e f g i]
- 8 [a b e] ・ [c d h j] ・ [f g i k]
- 9 [a b e f j] ・ [c g k] ・ [d h i]

〔問7〕 傍線部5「めでたき御ありさまもいみじうなつかしければ」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 天稚御子のすばらしいご様子にも帝はたいそう心引かれたので
- 2 天稚御子のすばらしいご様子にも狭衣はたいそう心引かれたので
- 3 狭衣のすばらしいご様子にも天稚御子はたいそう心引かれたので
- 4 狭衣のすばらしいご様子にも帝はたいそう心引かれたので
- 5 帝のすばらしいご様子にも天稚御子はたいそう心引かれたので
- 6 帝のすばらしいご様子にも狭衣はたいそう心引かれたので

〔問 8〕 本文中で述べられている内容と合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙 B)

- 1 皇太后宮の姫宮たちが宮中にいらっしゃるので、狭衣はなんとかして姫宮たちに笛の音をお聴かせしたいと思う。しかし、局までは距離があるので、笛の音が届くのは難しい。狭衣はこの点を苦々しく思っている
- 2 天稚御子が天から降って来る前には、稲妻が光り雷鳴がとどろいていたが、不思議と空には多くの星が輝き出し、月も美しく輝き出した。そして、さまざまな素晴らしい音楽の音色が空には満ちていた
- 3 狭衣はその笛の音色の類いまれな素晴らしさによって天稚御子に魅入られてしまった。狭衣は帝に笛を渡して天稚御子と共に昇天しようとしたが、帝や東宮は笛を受け取らずに狭衣の手を捉えて昇天を阻止した
- 4 狭衣と天稚御子の昇天を阻止することができた喜びをつづつた文章を帝と東宮は製作し、帝は美しい声でその文章の内容を朗詠した。狭衣も天稚御子も帝の声のあまりの美しさに涙を流してひたすら感動した
- 5 天稚御子は泣きながら雲の乗り物に乗って昇天したが、その際、帝や狭衣と心を通わせることができた思い出の忘れがたさに一度引き返して来た。そして、再び天稚御子がかぐわしい薫りをこの世に残して昇天した

国語

〔注意〕 記述式で解答する場合は解答用紙Aを、マーク式で解答する場合は解答用紙Bを使用せよ。

- 1 次の文章は西郷甲矢人・田口茂著『現実』とは何かの一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

「場」とは何か？ 場を直接見ることはできない。そういうと、「場」という概念をまったく知らない人は、「なぜ見ることができないのに、そういうものが〈ある〉と言えるのか？」という疑問を抱くかもしれない。そういう人に——アラデーが金曜講義で行ったように——から順を追って「場」というものを考えなければならない必然性を説明するとしたら、どのようになるだろうか。

磁石を知らない人はいないだろう。N極とS極が引き合うとか、N極同士、S極同士が反発し合うということも、多くの人は実際に試したことがあるだろう。それを始めて知り、始めて両手にその反発力や引力を感じた子供の気持ちに立ち戻ってみるなら、それはとても不思議なことであり、驚きであるはずだ。その「見えない力」は、紙やガラス、プラスチックの下敷きなどを挟んでも、ものともせずに発揮される。実際、歴史的にはそれを魔法になぞらえた人々もいたように、謎めいたものに思える。

しかし、理科の教科書にそのことが現われて、「そういうものだ」と言われると、¹当初の不思議さは消え、単なるテストのための暗記の対象にすぎなくなってしまう。それ以上の知識をもっている人は、少なくとも多数派ではない。つまり、当初の疑問に立ち返って、「なぜなのか？」と問うたときに、自分で答えられる人は多くはないということである。それに答えようとするところに「場」という概念が登場してくるのである。

そもそも何が不思議であったかという点、「何もないところに力が働く」という点であったと言える。通常われわれは、「物と物が直接ぶつかり合ったときに力が^a働かされて作用し合う」と考える。この考えを基本にすると、磁石の力は何もないところに働いたり、間に物が挟まっても遮られることなく働いたりする点が不思議に思える。

では、²本当に「何もない」のだろうか。たしかに、空気を抜いて真空にしても磁力は働く以上、何かわれわれの常識で知られるような「物」を媒介にしているわけではないだろう。そうであれば、もちろんそこには何もないのだろうと思うのが普通かもしれないが、ある簡単な実験が、そのような常識的な考えを揺さぶるのである。

磁石の周りに砂鉄を[※]撒いてみよう。いままで何もないと思われていたその空間に、⁷鮮やかなパターンが現われる。その瞬間、「そこには何もない」と言うことはむしろ無理があるようにさえ思われるだろう。砂鉄自身が勝手にそのようなパターンを描いたとは考えられない。砂鉄を撒く実験はそもそも「不思議な力」の一つの確かめ方にすぎないのであって、それを確かめるために、他の物質（ニッ

ケルヤコバルト) を用いても構わない。つまり、「不思議な力」は色々な局面に現われるのだが、それらに共通する何か、砂鉄を媒介にして眼に見えるようになったように思われるのである。

「何も物がない」ところに「何かがある」。その「何か」が「場」と呼ばれる。「何も物がない」のだから、「場」は「物」ではない。「物」ではないが、砂鉄を撒いたときに気づくように、「物ではない何か³が現に働いている」と言わざるをえないように思われるのである。「場」という概念は、実は大部分このような直観にもとづいていると言つてよい。というのは、「場」という概念の必然性を、厳密に論理的に導き出すことは、予想外に難しいことだからである。少なくとも「物」というものを自明の前提とするかぎり、おそらくそのような厳密な説明は不可能である。「物でない」ものが「ある」とはどういうことか。そもそも「物」とは何か。われわれが「物」と呼んでいる存在のあり方をはつきりさせないかぎり、そもそも「場」とは何かをはつきりさせることはできない。

では、「物がある」というときに、われわれがヨウセイ⁶している条件とは何か。その最も主要な条件の一つとして、われわれが経験しているときにも、していないときにも、また、誰が経験しても、同じようにある、ということが挙げられる。ところが先ほど砂鉄を媒介にして眼⁶に見えるようになったそれ、すなわち「磁場」と呼ばれるものは、次のような性質をもつ。すなわち、ある観測者にとってはそこに磁場があるのだが、その観測者に対して運動しているある別の観測者にとっては、そのような磁場はない、という性質である。

荷電粒子(+ グラス) ないし(- マイナス) の電気を帯びた粒子) が運動しているとき、その周りに磁場ができるということは、よく知られている法則である(というより、磁場とはそういうものでしかない)。いま目の前で、ある荷電粒子が運動しているとしよう。そうすると、それを観測している人にとっては、磁場が「ある」ことになる。ところが、もしその荷電粒子とイツシヨ⁶に動いている人がいるとすると、その人にとってはその荷電粒子は止まっている。止まっている荷電粒子は磁場を作りはしない。したがつてその観測者にとっては磁場は「ない」ことになる。こう考えるなら、磁場は或る人にとっては「ある」、別の人にとっては「ない」ことになり、どちらが正しいのかが問われることになる。あるいは、「磁場はあり、かつない」という A に陥り、論理的に破綻するのではないかと思われるかもしれない。しかし、実はそうではない。根本に戻つて考えてみよう。

ここでの出発点は、荷電粒子が運動しているときに、その周りに磁場を作るという比較的単純な事実であつた。ここで「運動している」と言つたが、「運動している」「動いている」とは、そもそもどういうことか。これは日常では、見ている人に対して、何かの空間的な位置が変化していくことを言うだろう。この点を極端に言うなら、つねに止まっているのは自分の視点で、それに対して世界の一切の風景は動いてゆく、とも考えられる。しかし、われわれはそうは考えない。歩いているときや乗り物に乗っているときには、自分の視点が動いていると見なす。だが、見えているのは、依然として「動いている風景」のはずである。それなのに、どうして「自分が動いている」と考えることができるのか。これは、われわれ自身の認識の成り立ちに関わることだから、ここで簡単に述べることはできないが、少なくとも言えることは、そのようなかたちでの「 X 」が、われわれの認識の核心にもうすでに属しているということである。止まっている「地盤」があつて、自分の視点の方が動

いている、という考え方は、われわれにとって実に「自明な」ものとなっているが、「動いている」ということの最も基本的な事態は、「見ている私にとって動いている」ということではないのか。

この点を直観的に見てとるために、⁴ 身近な例を引いてみよう。列車に乗っているときには、現に動いているのは、風景の方である。「私の視点^dが動いている」ということ自体は、「自分が実際に観察している」事柄ではない。そのことは、いかに「直観的」に思っても、動いている風景からの一定の「変換」によって理解されているのである。車窓を見ていて、隣に止まっている列車が動いているのが、自分の乗っている列車が動いているのが、一瞬わからないことがある。このように、「どちらが動いているか」については、ただちに自明ではなく、判断やスロンの余地がある。しかし、「私にとって動いているように見える」ということそれ自体は否定しがたい。そこに議論の余地はない。「実は私にとって動いているように見えないのだ」というのはおかしい主張になるだろう。

このように、「動いている」ということの基本は、「 γ 」ということである。もちろんその「私」は、絶対的に固定しうるものではなく、「それぞれの、そのつどの私」にならざるをえない。それゆえ、いかにえらば、「動いている」ということは、「誰かにとって動いている」ということである。

ここで先ほどの荷電粒子と磁場の話に戻ろう。荷電粒子について、それが「動いているか、止まっているか」を絶対的に決定することはできないと言える。なぜなら、「動いていること」の基本は、「誰かにとって動いている」ということであり、「誰にとつてもない」仕方で、動いているかいないかを決定することはできないからである。「磁場はあるのか、ないのか」という A に正面から巻き込まれるのではなく、われわれはむしろこの基本的な事態に立ち帰るべきである。荷電粒子は、運動しているときに磁場を作る。「運動している」とは、「誰かにとって運動している」ことである。「運動している」といつたとき、すでに磁場についての言明は「誰にとつて」という問題を回避することはできなくなっていたはずなのである。

この問題をまともな受け止めて展開するならば、アインシュタインの相対性理論に行き着くはずである。(相対性理論は、そもそも「動いている物体の電気力学」という題名の論文において発表された) 荷電粒子に対して動いている人にとっては磁場があり、止まっている人にとっては磁場がないということ、いかなる事実も否定することなしに、矛盾なく理解するためには、⁵ 特権的な観測者を相定するのではなく、「どの観測者から見るか」という点を含めた変換の理論が必要になる。それがすなわち相対性理論なのである。

要するに、「いつでも誰にとつても、つまりどのような観測者にとつても同じようにある」というあり方が、「物」についての素朴な見方であるのに対して、「場」(いまの場合は電磁場) において問題になっているのは、「誰がどのようにそれを見るかによって変わってくる」ようなあり方である。そのような見方の転換が、相対性理論において行われているのである。

日常においては、さつきは見えていた「物」が、動いたら見えなくなつたとしたら、それが「ある」とは言いにくくなる。むしろ自分の錯覚や思い違いではないか、と疑いたくなる。しかし実は、ここで問題にしている磁場に関しては、観測者によつて磁場が「あつたりなかつたり」することは、

単なる「思い違い」や「幻影」であるわけではなく、「どんな場合に、誰にとって、どのくらいの強さの磁場があるか」ということは厳密に計算できる。むしろその観測者を考慮に入れた変換規則は、きわめて揺るぎのないものとして明らかになる。ここで、「観測者から独立である」という恒常性^エから、「観測者をも考慮に入れた変換規則の恒常性」の方に、力点が移っている。まさにこれが相対性理論の核心の一つである。

〈注〉ファラデー マイケル・ファラデー。物理学における磁場の基礎理論を確立したイギリスの物理学者・化学者。毎週金曜の夜、一般市民向けに「金曜講義」と呼ばれる講演を行った

荷電粒子 電荷を帯びた粒子のこと。電子、陽子、イオンなどのほかに、帯電した小物体も含まれる

〔問1〕 二重傍線部 a～d に相当する漢字を含むものを、次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ 1

つずつ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

a オヨばす

- 1 責任をツイキユウする
- 2 真理をタンキユウする
- 3 タイキユウセイの高い素材
- 4 対策にコンキユウする
- 5 汚職の容疑をキユウタンする

b ヨウセイ

- 1 ナイセイテキな性格
- 2 仲間を率いてエンセイする
- 3 政府に工事の撤回をセイガンする
- 4 セイテンの霹靂くもれび
- 5 キユウセイした師を悼む

c イツシヨ

- 1 シヨハンの事情で中止となる
- 2 神社のユイシヨをたずねる
- 3 違反者をシヨバツする
- 4 契約書にシヨメイする
- 5 シヨミンテキな暮らし

d スイロン

- 1 農村が稲のシユツスイキを迎える
- 2 スイジャクした体を休める
- 3 現金をスイトウする
- 4 任務をカンスイする
- 5 人口増加のスイイを記録する

〔問2〕 二重傍線部ア～エの漢字の読みを平仮名で記せ。(解答用紙 A)

ア 鮮(やか)

イ 素朴

ウ 幻影

エ 恒常

〔問3〕 傍線部1「当初の不思議さ」の説明として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 磁石がもたらす力を魔法にたとえる人々がかつて実在したことの不思議
- 2 磁石と磁石が直接触れ合わなくとも互いに力を行きわたらせること的神奇
- 3 磁石の反発力や引力が金属類にのみ限定的に作用すること的神奇
- 4 磁石が生む「場」という概念の必然性を説明する必要があること的神奇
- 5 磁石やその力についての知識が普遍的に周知されていること的神奇

〔問4〕 傍線部2「本当に「何もない」のだろうか」とあるが、この問いに対する筆者の答えとして最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 砂鉄などの「物」が勝手に描いた不思議な力のパターンが存在する
- 2 誰が経験するかによつて異なる現象を見せる「物」が存在する
- 3 われわれが経験しているときもしていないときも観察できる「場」が存在する
- 4 直接的には観察することのできない「場」が存在する
- 5 砂鉄を媒介にすると観察できる「場」という「物」が存在する

〔問5〕 傍線部3「場」という概念は、実は大部分このような直観にもとづいている」とあるが、なぜ「論理」ではなく「直観」にもとづくしかないのか。筆者が説明する理由として当てはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 「物」と呼ばれている存在のあり方を明確にしないと、「場」の概念も論理的に説明できないから
- 2 「物」というものを説明不要なほど明白な前提としてしまい、厳密な論理的説明ができないから
- 3 「物でない」ものが「ある」という論理が、われわれの常識では容易には理解しがたいから
- 4 「場」の働きを解き明かす秘密を暗記対象の知識におとした結果、「場」の実体が論理的に全く解明されていないから
- 5 「場」という概念の必然性を、厳密な論理で明示することは非常に困難だから

〔問 6〕 空白部 A (二箇所) に共通して入る最も適当な語句を本文中から漢字二字で抜き出して答えよ。(解答用紙 A)

〔問 7〕 空白部 X を埋めるのに最も適当な語句を次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 変換 2 反発 3 破綻 4 媒介 5 錯覚

〔問 8〕 傍線部 4 「卑近な」という語句の意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 説得力のある抽象的な
2 動物や機械にまつわる
3 日常的で俗っぽい
4 時代的に新しい
5 洗練された知的な

〔問 9〕 空白部 Y を埋めるのに最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 見ている私
2 私の視点が動いている
3 自明ではない私
4 動いている私
5 私にとって動いている

〔問 10〕 傍線部 5 「特権的な観測者を想定する」と、「場」をどのように捉えることになるかと筆者は考えているか。次の説明文が完成するように空白部に入る言葉を傍線部 5 より後の本文中から十字以内で抜き出して答えよ。(解答用紙 A)

場を した存在として捉えることになる

〔問Ⅱ〕 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 相対性理論を分析した結果、「私」が「運動している」という事態は、常識に反して相対的なものであることが解明された
- 2 相対性理論の重要な点として、「誰にとってか」ということも観測の判断要素に含めた、転換法則の一定性を挙げることができる
- 3 相対性理論は、「場」と「物」の見方を相対化し、何も無いところで「運動している」荷電粒子の観察法を発明することに貢献した
- 4 相対性理論を応用することで、「場」という概念を、観測者から干渉されない普遍的な現象として理解することができる
- 5 相対性理論の確立によって、「物」を大局的に観測し不変的な秩序を見いだすことのできる、絶対的な観測点が計算可能となった

次の文章は、奈良時代に「中将姫」が仏の力を借りて「当麻曼荼羅」を織り上げたという説話を踏まえて、室町時代に書かれたものである。これを読んで、後の問に答えよ。

肥後、古麻の里といふところに女ありけり。十九歳の時、男に離れて、尼になりけり。京にのぼりて、北野の三昧に入りて、夜々念仏をぞ申しける。

あるとき、織殿に行きて、糸を勸進しけるやうは、「当麻の曼荼羅、朽ち果てぬるほどに、新しく織るべし」といふ。織殿、肝を消して、「不思議の事かな。いかなる事ぞや。糸はいかほども施し参らすべけれども、当麻の曼荼羅は、むかし中将姫の織り給ひしも、三世諸仏・諸菩薩の、手ぐりの糸にて、機物を立て、織り給ひし事は、学ぶことかたかるべきに、いかがせむ」といひければ、「いかがしても、織りてみむ」と申しけり。「さらば糸はのぞみのごとく参らせむ」とてこそ出だしけれ。やがてこの尼、中将姫のあやにかはらず織り出だしけり。されども、文字をば織らざりけり。世の人、「これはたくひなきためしかな」とて、貴賤群衆して、拝みたふとひける。

時は後柏原天皇の御宇なりけり。このよし、殿上に聞こえあげて、勸覧ありける。その尼をも殿上に召し出だされて、勸感し給ひける。「それはいかにして文字をば織らぬ」と御たづねありければ、尼申していはく、「文字も織り申すべけれども、凡人の沙汰、申すばかりもいかがあらむ。ひとたびは勸覧のためしもあるべきにと存じて、織り申さぬ」よし申しければ、「さらば勸筆を染めらるべし」とて、文字をば一字三礼として、勸をぞ下されける。

その後、昔の曼荼羅をば古り果ててかけられざるゆゑに、裏板に貼り付けて、ただいまの織物を「新曼荼羅」と号して、秘し置きけりとなむ。いよいよ勸感ありて、「曼荼羅の尼」とぞ仰せられける。

(『月庵醉醒記』による)

〈注〉 肥後、古麻の里	肥後は肥後の国であり現在の熊本県にあたるが、古麻という地名は未詳
北野の三昧	京の北西部に位置する北野という地域にある墓所
織殿	機で布を織るための建物、また、その役割を担う者
勸進	寺社や仏像などの建立や修理の寄付を求めること
当麻の曼荼羅	阿弥陀如来の治める極楽浄土の情景を表した仏教絵画。奈良の当麻寺にあるものが原本とされ、ハスの糸を織つて作られたと伝えられている
中将姫	当麻寺にある曼荼羅を織つたと伝えられる伝説上の女性
三世諸仏・諸菩薩	過去・現在・未来の三世にわたつて存在する一切の仏や菩薩
機物	布を織る機械、機織り機のこと
貴賤群衆	身分の高い者も低い者も大勢寄り集まること
後柏原天皇の御宇	後柏原天皇が在位するとき（一五〇〇～一五二六年）
勸覧	天皇がご覧になること
勸筆	天皇の直筆
一字三礼	一字書くごとに三度仏を礼拝すること

観感

天皇が感心しておほめになること

〔問1〕 二重傍線部 a) e の動作の主体はだれか。次の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙 B)

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1 尼 | 2 男 | 3 織殿 |
| 4 中将姫 | 5 世の人 | 6 後柏原天皇 |

〔問2〕 傍線部 1 「肝を消して」を六字以内で現代語に改めよ。(解答用紙 A)

〔問3〕 傍線部 2 「かたかる」の文法的説明を、次の空白部 W・X・Y・Z を埋める形で答えよ。ただし、Y には終止形を記せ。(解答用紙 A)

(例) 活用の 「」の 形

活用の 「」の 形

〔問4〕 傍線部 3 「いかがしても、織りてみむ」の意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 どんな手を使えば織りとおせるだろうか
- 2 いかなる方法を用いても織ってみるだろう
- 3 誰がなんといおうと織ってみたい
- 4 いかに時間がかかっても織り終えるつもりだ
- 5 なんとかしてでも織ってみよう

〔問5〕 傍線部 4 「中将姫のあやにかはず織り出だしけり」とあるが、その意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙 B)

- 1 中将姫が決めた織り方と変わらないほど豪華に織り出したものである
- 2 中将姫が会得した技術と変わらないほど正しく織り出したものである
- 3 中将姫が定めた方法と変わらないほど精密に織り出したものである
- 4 中将姫が作り上げた模様と変わらないほど見事に織り出したものである
- 5 中将姫が考え出した模様と変わらないほどの独創性で織り出したものである

〔問6〕 傍線部5「たくひなきためしかな」の意味として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 くらべるものがないほどすばらしい例であることよ
- 2 あまりめずらしくもない出来事であることだ
- 3 とてもめずらしい例であるようだ
- 4 くらべるほどのこともない出来事であることよ
- 5 非常にすばらしい例であるらしいなあ

〔問7〕 傍線部6「それはいかにして文字をば織らぬ」とあるが、尼が曼荼羅に文字を織らなかった理由として最も適当なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。(解答用紙B)

- 1 自分のような平凡な人間にとって極楽浄土の様子を曼荼羅に表しつくすことは難しく、ましてやその中に尊い文字を織り込む技術は持っていないので、一度世の中の人の感想を聞いてからにしようと思ったから
- 2 遠い肥後の国から京に来たばかりのうえ、あまり修行も積まないまま尼になってしまった自分にとって曼荼羅に尊い文字を織り込むことはとうてい許されることではなく、まだまだ信仰心が足りない未熟者であると思ったから
- 3 自分のような修行途中の未熟な尼にとって中将姫ははるか昔のおそれ多い存在としか思えないので、中将姫のまねをして曼荼羅に尊い文字を織り込むことは身分不相応であり、世の中の人からそしられるかもしれないと思ったから
- 4 自分のような平凡な尼が極楽浄土の様子を想像することは難しく、その様子を文字にして曼荼羅に織り込むことなどとうていできないことであるので、一度天皇にお目につけて、どのようにしたらよいか相談してからにしようと思ったから
- 5 中将姫が曼荼羅を織ったときのように仏や菩薩が手伝ったわけでもなく、中将姫の身分におよばない尼の自分が曼荼羅のなかに尊い文字を織り込むのはおそれ多いので、一度天皇にお目につけて直筆の文字を頂きたいと思ったから

〔問 8〕 本文に書かれている内容に合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

(解答用紙 B)

- 1 肥後の国の女は十九歳のときに男と結婚し、その後、夫とともに京に上つて北野の三昧でもつばら念仏を唱えて暮らした
- 2 尼は中将姫の織った曼荼羅が傷んでいることに心を痛め、それに代わる曼荼羅を自分が織ろうと思い立って、織殿に糸をほしいと頼んだ
- 3 中将姫の織った曼荼羅は仏や菩薩たちによつてもたらされた糸を使って作られたので、尼がどんなに工夫しても同じものは二度と作ることができなかった
- 4 尼の織った曼荼羅は世の中の人の評判がくたばしくなく、後柏原天皇は御覧になった途端文字が織り込まれていなかったので失望した
- 5 かつて中将姫の織った曼荼羅は時代を経て古くなってしまったので、取り外して捨て、新たに尼の織った曼荼羅を貼り付けて寺に秘蔵した